

《2025年度版》

科目群履修認証制度（放送大学エキスパート）について

～認証取得の手引き～

科目群履修認証制度（放送大学エキスパート）は、本学が指定する特定の授業科目群を履修することにより、ある分野に目的・関心を持ち、そのための学習を体系的に行ったことを証明する制度です。2008年4月からは、新たに学校教育法に規定された「履修証明制度」に対応しています。

認証取得を目指される方は、「1. 認証取得までの流れ」「3. 授業科目群の見方（全認証プラン共通）」「4. プラン別認証取得条件」を読み、該当の科目を履修してください。なお、事前に特別な手続きは必要ありません。認証取得条件を満たした後に、「2. 認証状申請手続要領」に従って申請してください。

なお、本制度は放送大学の卒業要件ではありませんので、必ず取得しなくてはならないものではありません。希望者のみが申請してください。

《2025年度 認証一覧》 認証状交付申請期間（2025年4月1日～2026年9月30日）

No.	認証プラン名	認証状の名称
1	健康福祉指導プラン	健康福祉運動指導者
2	福祉コーディネータプラン	福祉コーディネータ
3	社会生活企画プラン	社会生活プランナー
4	心理学基礎プラン	心理学基礎
5	臨床心理学基礎プラン	臨床心理学基礎
6	異文化コミュニケーションプラン	異文化理解支援
7	宇宙・地球科学プラン	宇宙・地球科学
8	環境科学プラン	環境科学の基礎
9	芸術系博物館プラン	芸術系博物館活動支援
10	歴史系博物館プラン	歴史系博物館活動支援
11	自然系博物館プラン	自然系博物館活動支援
12	工学基礎プラン	工学基礎
13	地域貢献リーダー人材育成プラン	地域貢献リーダー人材
14	日本文化を伝える国際ボランティア・ガイド（基礎力）養成プラン	日本文化を伝える国際ボランティア・ガイド（基礎力）養成
15	学校地域連携コーディネータープラン	学校地域連携コーディネーター
16	データサイエンスリテラシープラン	データサイエンス・リテラシー
17	データサイエンスアドバンスプラン	データサイエンス応用基礎
※18	社会探究プラン	現代社会の探究
※19	次世代育成支援プラン	次世代育成支援
※20	生命科学プラン	生命人間科学
※21	社会数学プラン	数学と社会
※22	食と健康アドバイザープラン	食と健康アドバイザー
※23	人にやさしいメディアデザインプラン	人にやさしいメディアのデザイン
※24	データサイエンスプラン	データサイエンス
※25	市民活動支援プラン	市民政策論
※26	日本の文化・社会探究プラン	日本の文化と社会
※27	計算機科学基礎プラン	計算機科学の基礎

※「認証状」、「証明書」及び「カード」には「認証状の名称」が記載されます。「認証プラン名」は記載されません。

※本パンフレットの認証取得条件を満たした場合には、2026年度第1学期末まで（2025年4月1日～2026年9月30日）申請が可能です。その期間を過ぎた場合には、最新版の認証取得条件をご確認ください。

※No.18～No.21のプランは2021年3月31日をもって廃止されましたが、2026年3月31日まで申請は可能です（その間、新規科目の追加は行いません）。

※No.22～No.24のプランは2022年3月31日をもって廃止されましたが、2027年3月31日まで申請は可能です（その間、新規科目の追加は行いません）。

※No.25～No.27のプランは2023年3月31日をもって廃止されましたが、2028年3月31日まで申請は可能です（その間、新規科目の追加は行いません）。

※No.16～No.17のプランは、文部科学大臣が認定及び選定する「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」に認定されています。

※放送授業科目の開設期間はおおむね4年間です（開設期間は事情により変更することがあります）。

目次

1. 認証取得までの流れ	3
2. 認証状申請手続要領	4
3. 授業科目群の見方(全認証プラン共通)	6
4. プラン別認証取得条件	8
① 健康福祉指導プラン	8
② 福祉コーディネータプラン	9
③ 社会生活企画プラン	10
④ 心理学基礎プラン	11
⑤ 臨床心理学基礎プラン	12
⑥ 異文化コミュニケーションプラン	13
⑦ 宇宙・地球科学プラン	14
⑧ 環境科学プラン	15
⑨ 芸術系博物館プラン	16
⑩ 歴史系博物館プラン	17
⑪ 自然系博物館プラン	18
⑫ 工学基礎プラン	19
⑬ 地域貢献リーダー人材育成プラン	20
⑭ 日本文化を伝える国際ボランティア・ガイド(基礎力)養成プラン	21
⑮ 学校地域連携コーディネータープラン	22
⑯ データサイエンスリテラシープラン	23
⑰ データサイエンスアドバンスプラン	24
⑱ 社会探究プラン	25
⑲ 次世代育成支援プラン	26
⑳ 生命科学プラン	26
㉑ 社会数学プラン	27
㉒ 食と健康アドバイザープラン	27
㉓ 人にやさしいメディアデザインプラン	28
㉔ データサイエンスプラン	29
㉕ 市民活動支援プラン	30
㉖ 日本の文化・社会探究プラン	31
㉗ 計算機科学基礎プラン	32
5. Q&A	33
認証状等交付願(2025年度)	36

学校教育法第105条「履修証明制度」とは

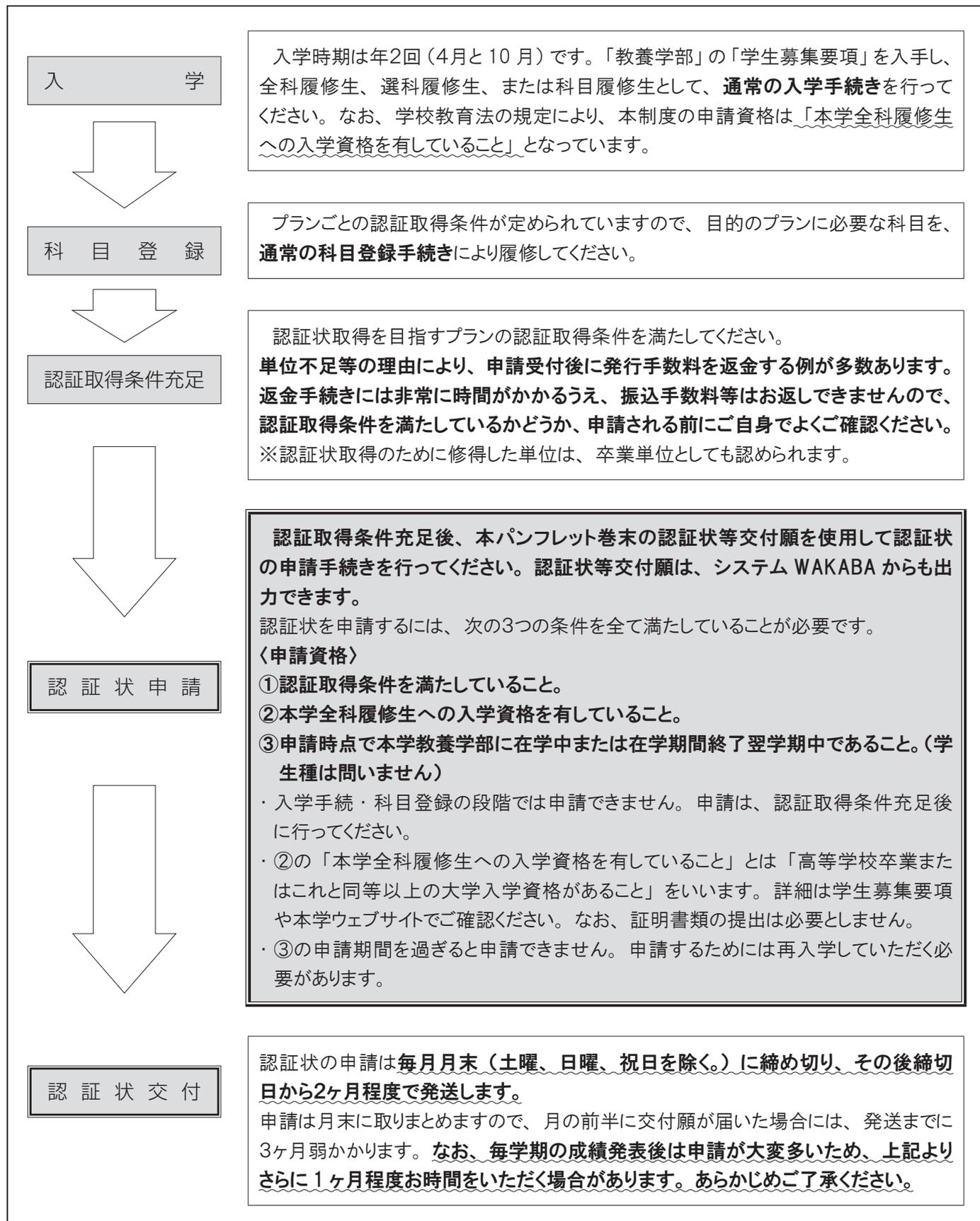
2007年の学校教育法改正により、大学等(大学、大学院、短期大学等)における「履修証明制度」が創設されました。これにより、大学等において、一定の教育計画の下に編成された体系的な知識・技術等の習得を目指した学習プログラム(履修証明プログラム)を開設し、その修了者に対して、学校教育法の規定に基づくプログラムであることを示した履修証明書(Certificate)が交付できることとなりました(第105条)。

放送大学の「科目群履修認証制度(放送大学エキスパート)」は、2008年4月より、この法律に基づく制度となりました。認証状、証明書及びカードには、「学校教育法第105条の規定に基づいていること」が明記されていますので、履歴書に記載したり、ボランティア活動等でご提示いただいたり、様々な場面でお役立ていただければ幸いです。なお、「履修証明制度」の「履修資格」は「大学において定めること。ただし、大学に入学することができる者」と定められていますので(学校教育法施行規則 第164条第3項)、本学の科目群履修認証制度の申請資格は「本学全科履修生への入学資格を有していること」とします。(3ページ〈申請資格〉欄参照)

1. 認証取得までの流れ

放送大学エキスパートは、プランごとに指定された認証取得条件を充足された方からの申請に基づいて「認証状」を交付する制度です。ここでは、入学から認証状交付までの流れを大まかに解説しています。「**学生募集要項**」や「**授業科目案内**」等と併せてご覧ください。なお、本制度は放送大学の卒業要件ではありませんので、必ず取得しなくてはならないものではありません。

〈認証状取得までの流れ〉



2. 認証状申請手続要領

放送大学エキスパートの申請手続は、必ず認証取得条件を満たした後^{*}に行ってください。

※入学手続・科目登録の段階では申請できません。

※各プランの認証取得条件は、8～32ページをご覧ください。

〈申請手続〉

申請方法	<p>以下を次ページの申請先まで郵送してください。</p> <p>1. 認証状等交付願（2025年度） 認証状等交付願は本パンフレット最終ページに掲載しています。切り取って、またはコピーしてお使いください。また、システムWAKABAからも出力できます。</p> <p>2. 発行手数料（支払い方法は次ページ参照）</p> <p>〔注意事項〕</p> <ul style="list-style-type: none">●郵送方法（普通郵便、簡易書留等）については、申請者の責任において選択してください。万が一郵便の不着等の事故があった場合でも責任は負いかねます。●認証状等交付願の到着確認には応じておりません。確認を希望する方は、追跡サービスのある郵送方法を選択し、ご自身での確認をお願いします。●出願票や科目登録申請用紙等、他の提出書類と同封して送付した場合、通常よりも発行処理に時間がかかる場合がありますので、必ず他の提出書類とは別便にてご郵送ください。														
発行手数料	<p>〈交付〉 <u>認証状の交付は1プランにつき1通のみです。</u> 認証状交付の際に、証明書を1通添付します。</p> <table><tr><td>1. 認証状+証明書</td><td>1,000円</td></tr><tr><td>2. 認証状+証明書+カード</td><td>1,500円</td></tr></table> <ul style="list-style-type: none">●複数プランを申請される場合は、「発行手数料×プラン数」となります。●認証状交付時に証明書を2通以上希望される場合、2通目以降は1通につき200円となります。 <table><tr><td>（例）認証状+証明書2通の場合</td><td>1,200円</td></tr><tr><td> 認証状+証明書2通+カードの場合</td><td>1,700円</td></tr></table> <hr/> <p>〈再交付〉（証明書・カードのみ ※認証状の再交付はできません。） <u>証明書及びカードの再交付申請ができるのは、過去に認証状の交付を受けた方のみです。</u></p> <table><tr><td>1. 証明書再交付 1通につき</td><td>200円</td></tr></table> <p>※証明書のみの再交付申請をする場合、[返信用封筒]が必要です。 長形3号封筒に110円切手を貼付、返信先を明記し同封してください。</p> <table><tr><td>2. カード再交付 1枚につき</td><td>1,000円</td></tr></table> <p>※2008年5月までに認証状を取得されたプランについては、1枚目のカードに限って特例措置として500円とします。</p> <table><tr><td>3. 2008年3月31日以前の認証状を取得し、再審査を希望する場合 1認証につき</td><td>500円</td></tr></table> <p>※1認証につき、認証状発行は1回限りとなります。詳細は35ページQ12を参照してください。</p> <p>●発行手数料は、所定の金額分をお支払いください。</p>	1. 認証状+証明書	1,000円	2. 認証状+証明書+カード	1,500円	（例）認証状+証明書2通の場合	1,200円	認証状+証明書2通+カードの場合	1,700円	1. 証明書再交付 1通につき	200円	2. カード再交付 1枚につき	1,000円	3. 2008年3月31日以前の認証状を取得し、再審査を希望する場合 1認証につき	500円
1. 認証状+証明書	1,000円														
2. 認証状+証明書+カード	1,500円														
（例）認証状+証明書2通の場合	1,200円														
認証状+証明書2通+カードの場合	1,700円														
1. 証明書再交付 1通につき	200円														
2. カード再交付 1枚につき	1,000円														
3. 2008年3月31日以前の認証状を取得し、再審査を希望する場合 1認証につき	500円														

発行手数料の支払方法は以下の3通りです。ご都合の良い方法でお支払いください。

① 銀行振込

振込先

千葉銀行 幕張支店 (普) 3348227
放送大学学園 理事長 高橋 道和

※理事長名は現時点のものであり、振込時に異なる場合もありますが、異なっても振込は可能です。

- 申請の際、「銀行振込明細書」のコピーを必ず同封してください。
- インターネットバンキングをご利用の場合、「①振込日、②振込者の氏名、③振込金額」が確認できる画面を印刷してお送りください。
- 残高等の個人情報に記載されている場合は、修正液等で消してお送りください。
- 上記書類を同封されていない場合、入金の確認に時間を要するため、認証状等の発送に通常より時間がかかる場合があります。

支払方法

② 郵便定額小為替

「定額小為替証書」及び「定額小為替払渡票」の原本を郵送してください。

- 「定額小為替証書」と「定額小為替払渡票」は切り離さないでください。
- 「定額小為替金受領証書」は、認証状が届くまで大切に保管してください。
- 「定額小為替証書」の有効期限は、発行日から6ヶ月です。必ず有効期限内のものをお送りください。
- 「定額小為替証書」の表面と裏面には何も記入しないでください。
※表面「指定受取人おなまえ」欄の下に、「上記の金額を受け取りました。(上記の金額をお受け取りになる方が記名・押印してください)」と記載されていますが、この欄も記入しないでください。

③ 現金書留

所定の手続きに従い、現金をお送りください。

申請先及びお問い合わせ

【申請先】

〒261-8586 千葉市美浜区若葉2-11

放送大学 学務部 連携教育課 企画推進係

※封筒の表面に朱書きで「放送大学エキスパート交付願在中」と記載してください。

【お問い合わせ】

TEL : 043-276-5111 (総合受付)

平日 9:15 ~ 17:30

土曜日 9:15 ~ 13:00、14:00 ~ 17:30

E-mail : renkei-ka@ouj.ac.jp

※単位不足等の理由により、申請受付後に発行手数料を返金する例が多数あります。返金手続きには非常に時間がかかるうえ、振込手数料等はお返しできませんので、認証取得条件を満たしているかどうか、申請される前にご自身でよくご確認ください。

システムWAKABAから、単位修得情報、履修情報等がご確認いただけるほか、科目群履修認証制度自己判定機能もご利用いただけます(34ページ参照)。

※資格要件を満たしているかについてのお問い合わせには応じられませんので、必ず科目群履修認証制度自己判定機能によりご自身で確認のうえ、申請してください。

備考

本制度は「厚生労働大臣指定教育訓練給付金制度」の適用はありませんが、本制度のプランをベースとした教育訓練給付制度の講座の利用については、本学ウェブサイトの以下ページをご確認ください。

<https://www.ouj.ac.jp/admission/gakubu/training-education-benefits/>

3. 授業科目群の見方(全認証プラン共通)

※認証を取得する条件は各認証プランで異なります。

※各認証のページに記載の(認証取得条件)を確認のうえ、履修してください。

※また、「授業科目群の構成表」の記載事項については、下記の内容に注意してください。

1. 「科目名」欄のTはBSテレビ科目、T※は放送授業科目(〔注〕参照)、RはBSラジオ科目、Oはオンライン科目、面は面接授業科目です。

2025年度に開講している科目のみ表示しています(面接授業科目は除く)。

〔注〕T※は放送授業ですが、テレビによる放送は行わず、インターネット配信限定で視聴する科目です。

2. 「必修科目等」欄の◎印は必修科目(必ず履修しなくてはならない科目)、○印は選択必修科目(いずれかを選択して必ず履修しなくてはならない科目)、無印は選択科目(選択して履修する科目)です。

必修科目あるいは選択必修科目が指定されている場合は、その条件を満たしていなければ、たとえ総単位数を満たしていても認証状を申請することはできません。認証取得条件をよく確認して、計画的に履修してください。

3. 「備考」欄にA、B等の記号が記載されている科目については、同じ記号がついた科目を複数修得していても、認証取得条件として認められるのは、新しく修得した科目のみです。

これらの科目は、「再履修不可」の制限がかかっていませんので、卒業要件上は重複して履修することが可能ですが、本制度としては、同じ記号がついた科目を複数修得していても、新しく修得した科目しか認証取得条件として認められません。ただし、その場合でも、証明書には全科目名が表示されます。

(例)「①健康福祉指導プラン」の科目 No.15「グリーンサポートと死生学('24)」及び科目 No.19「死生学のフィールド('18)」の両方の科目を履修した場合

卒業要件上は4単位認定されますが、認証取得条件としては、「グリーンサポートと死生学('24)」の2単位のみ認定します。ただし、証明書には「グリーンサポートと死生学('24)」及び「死生学のフィールド('18)」の両科目名が表示されます。

4. 授業科目群は、原則として、1科目2単位ですが、オンライン授業では1科目1単位の科目もあります。

また、「⑥異文化コミュニケーションプラン」及び「⑭日本文化を伝える国際ボランティア・ガイド(基礎力)養成プラン」の「任意の外国語科目」、「⑭日本文化を伝える国際ボランティア・ガイド(基礎力)養成プラン」の「指定の日本文化に関する科目」、「⑯データサイエンスリテラシープラン」及び「⑰データサイエンスアドバンスプラン」の「本プラン指定科目」などは面接授業も対象とします。(面接授業=1科目1単位)

5. 授業科目群は、科目の開講年度(科目名末尾の('25)等)までを含めた指定です。

本制度は2006年度から実施していますので、原則として、授業科目群は、2006年度時点で開講していた科目及びそれ以降に新たに開講した科目を対象としています。例外的に、「再履修不可」の制限がかかっている科目(6.参照)及び本学が必要と認める科目に限り、過去の科目を授業科目群に含めています。授業科目群の一覧表に記載されていない開講年度の科目については、たとえ科目名が同じであっても認証取得条件には該当しませんのでご注意ください。

なお、「⑥異文化コミュニケーションプラン」及び「⑭日本文化を伝える国際ボランティア・ガイド(基礎力)養成プラン」の「任意の外国語科目」については、例外的に、科目の開講年度に関わらず「外国語科目」に属する科目の単位であれば全て認めます。

6. 「再履修不可」の制限がかかっている科目は、科目名を二段書き表記し、下段の科目を上段の科目に振り替えます。

「再履修不可」の制限がかかっている科目は、現在開講中の科目を上段に、閉講済みの科目を下段に記載し、上段、下段いずれの科目を修得していても認証取得条件として認めます。「再履修不可」の制限の有無は、「授業科目案内」の「科目名」欄で確認することができます。

(科目の有効期限については、次ページ7.~9.参照)

7. 授業科目群に指定された科目には有効期限があります。

授業科目群に指定された科目は、一部を除き、その科目の開講年度から数えて10年間、認証取得条件として認められます。たとえば、「〇〇（'16）」という科目は2016年度に開講した科目なので、2025年度認証取得条件まで有効で、2026年度認証取得条件からは授業科目群から外れます。なお、廃止プランにおいては、有効期限によって科目が授業科目群から外れることはありません。

8. 二段書き表記されている科目については、下段の科目にも上段の科目の有効期限を適用します。

科目の有効期限については、原則的には7.に記載しているとおりですが、二段書きで表記されている科目については、例外的に上段の科目の有効期限を下段の科目にも適用します。

（例）「①健康福祉指導プラン」の科目No.1の下段「運動と健康（'18）」は、上段「運動と健康（'22）」の有効期限を適用しますので、2031年度中まで有効です。

9. 「閉講科目」欄に記載された科目も、有効期限までは認証取得条件として認めます。

いったん授業科目群に指定された科目は、科目が閉講した後も、科目の有効期限までは授業科目群から外れることはありません。各プランごとの「閉講科目」として別枠に記載された科目は、新たにその科目を受講することはできませんが、既にその科目の単位を修得済みの場合は、科目の有効期限までは引き続き認証取得条件として有効です。

10. 他大学等で修得した単位は、認証取得条件として認められません。

本制度は、放送大学独自の制度ですので、授業科目群は本学が開講している科目のみを対象としています。他大学等で修得した単位は、認証取得条件として認められませんので、編入学された方も、本学の授業を新たに履修してください。

（例）「⑥異文化コミュニケーションプラン」及び「⑭日本文化を伝える国際ボランティア・ガイド（基礎力）養成プラン」の「任意の外国語科目」

11. 本学を卒業（修了）した後、再入学された場合、以前に修得した単位であっても、授業科目群に該当すれば認証取得条件として認めます。

ただし、科目の開講年度と有効期限にご注意ください。（5.と7.参照）

12. 授業科目群は毎年度見直します。

新設科目や閉講科目、科目の有効期限等の関係で、授業科目群の構成を毎年見直しております。また、プランを担当する各教員の判断で授業科目群の構成を変更する場合があります。

必ず最新年度のパンフレットで認証取得条件を確認してください。

なお、認証取得条件を満たした場合の申請は、当該年度の翌年度第1学期中まで申請を受け付けます。

（例）2025年度の認証取得条件を満たした場合

→2026年9月30日まで必着で申請してください。それを過ぎた場合には、2026年度の認証取得条件で判断いたします。

13. 授業科目群は各領域の教員が構成を行っているため、同じ科目でもプランごとに扱いが異なります。

14. 2016年度より参考として各プランに「認証取得後の目的・目指せる道・資格等」を掲載しております。

なお、あくまでも参考情報のため、詳細は各自で確認してください。

15. 正誤表などの情報は、放送大学ウェブサイトのお知らせ及び下記のページに掲載しています。

URL：<https://www.ouj.ac.jp/reasons-to-choose-us/expert/>（「実施要領」に掲載）



4. プラン別認証取得条件

①健康福祉指導プラン

認証状の名称	健康福祉運動指導者
<p>(認証の教育目標と社会的意義)</p> <p>超長寿社会においては、からだを自由に動かせる能力をいつまでも保持することが望まれる。運動指導にかかわる国家資格としては「介護福祉士」があるが、介護を必要とする者への運動指導だけでは不十分である。そこで、中・高齢者に適切な運動を指導できる能力を有する指導者が多数必要となる。本プランでは、介護を予防するために、健康人に対して運動実践を促す指導者を養成する。</p> <p>※「健康福祉運動指導者」は、放送大学独自の呼称です。</p>	
<p>(認証取得後の目的・目指せる道・資格等)</p> <p>①全科履修生については、卒業研究を履修し、認証取得で得た知識を基にして論文作成を目指す。②大学院(生活健康科学プログラムなど)に進学して研究を続け、将来、博士課程への進学や教員、研究者への道を目指す。③認証取得で得た基礎力をもとに、健康運動指導士、介護福祉士等を養成する大学・専門学校に進学し、資格取得を目指す。</p>	
<p>(認証取得条件)</p> <p>閉講科目を含む授業科目群40単位の中から、必修科目10単位を含めて、20単位以上を修得すること。</p> <p>◎：必修科目、無印：選択科目</p> <p>※「備考」欄に①、②等の表記がある科目については、同じ記号の科目を複数修得していても、認証取得条件として認められるのは1科目分の単位数のみです。</p>	

授業科目群の構成

科目名	分野もしくはコース名	必修科目等	備考
1 運動と健康('22) Ⅰ 運動と健康('18)	基盤科目	◎	
2 食と健康('24) Ⅰ	生活と福祉/社会と産業 自然と環境	◎	①
3 地域・在宅看護論('23) Ⅰ 在宅看護論('17)	生活と福祉	◎	
4 リハビリテーション('25) Ⅱ リハビリテーション('19) リハビリテーション('13)	生活と福祉/心理と教育 生活と福祉	◎	
5 高齢期を支える('23) Ⅱ	生活と福祉/心理と教育	◎	②
6 健康と社会('23) Ⅱ 健康と社会('17)	生活と福祉/社会と産業		
7 健康への力の探究('19) Ⅱ	生活と福祉		
8 睡眠と健康('25) Ⅱ 睡眠と健康('21)、睡眠と健康('17)	生活と福祉/心理と教育		
9 公衆衛生('24) Ⅱ 公衆衛生('19)、公衆衛生('15)	生活と福祉		
10 感染症と生体防御('24) Ⅱ 感染症と生体防御('18) 感染症と生体防御('14)	生活と福祉/自然と環境		
11 今日のメンタルヘルス('23) Ⅰ 今日のメンタルヘルス('19)	生活と福祉/心理と教育		
12 看護学概説('22) Ⅱ 看護学概説('16)	生活と福祉		
13 認知症と生きる('21) Ⅰ	生活と福祉/心理と教育		
14 基礎看護学('24) Ⅰ 基礎看護学('16)、基礎看護学('10) 基礎看護学('04)	生活と福祉		
15 グリーフサポートと死生学('24) Ⅱ	生活と福祉/心理と教育	◎	
16 障害者の自立と制度('24) Ⅰ	生活と福祉/心理と教育 社会と産業		③

(閉講科目) 以下の科目の単位を修得済みの場合、科目の有効期限(開講年度から10年間)までは認証取得条件として認めます。
(6、7ページの「授業科目群の見方(全認証プラン共通)」参照)

科目名	分野もしくはコース名	必修科目等	備考
17 食と健康('18) 食と健康('12)、食と健康('06) 食品の成分と機能('03)	生活と福祉/自然と環境	◎	①
18 高齢期の生活変動と社会的方策('19)	生活と福祉	◎	②
19 死生学のフィールド('18)	生活と福祉/心理と教育		③
20 障害を知り共生社会を生きる('17)	生活と福祉/心理と教育		④

②福祉コーディネータプラン

認証状の名称		福祉コーディネータ			
<p>(認証の教育目標と社会的意義)</p> <p>社会福祉の利用を促すために、総合的な知識を持つ専門家と市民が求められている。本プランでは、市町村の総合福祉相談員や地域センター等の生活支援担当者、福祉NPO従事者等にとって必要な社会福祉、社会保険の総合知識を習得し、さらには新しい活動を拓く知見を得ることを目標とする。また、市民が自分自身や家族、地域の福祉環境を向上させるためにも有効である。</p> <p>※「福祉コーディネータ」は、放送大学独自の呼称です。</p>					
<p>(認証取得後の目的・目指せる道・資格等)</p> <p>①全科履修生については、卒業研究を履修し、認証取得で得た知識を基にして論文作成を目指す。②大学院(生活健康科学プログラムなど)に進学して研究を続け、将来、博士課程への進学や教員、研究者への道を目指す。③認証取得で得た基礎力をもとに、社会福祉士、介護福祉士等を養成する大学・専門学校に進学し、資格取得を目指す。</p>					
<p>(認証取得条件)</p> <p>閉講科目を含む授業科目群95単位の中から、選択必修科目10単位を含めて、20単位以上を修得すること。</p> <p>○：選択必修科目、無印：選択科目</p> <p>※「備考」欄に(A)、(B)等の表記がある科目については、同じ記号の科目を複数修得していても、認証取得条件として認められるのは1科目分の単位数のみです。</p>					
<p>授業科目群の構成</p>					
	科目名	分野もしくはコース名	必修科目等	備考	
1	社会福祉—新しい地平を拓く('22) [T]	生活と福祉/心理と教育	○	(A)	
2	貧困の諸相('23) [R]	生活と福祉/心理と教育 社会と産業	○	(B)	
3	子どもの人権をどうまもるのか('21) [T]	生活と福祉/心理と教育	○		
4	高齢期を支える('23) [R]	生活と福祉/心理と教育	○	(C)	
5	社会政策の国際動向と日本の位置('23) [T]	生活と福祉/社会と産業	○	(D)	
6	家族問題と家族支援('20) [R]	生活と福祉/心理と教育	○		
7	ライフステージと社会保障('20) [R]	生活と福祉/社会と産業	○	(E)	
8	社会福祉実践とは何か('22) [R]	生活と福祉	○	(F)	
9	地域福祉の課題と展望('22) [T]	生活と福祉	○	(G)	
10	今日のメンタルヘルス('23) [T] 今日のメンタルヘルス('19)	生活と福祉/心理と教育	○		
11	障害者の自立と制度('24) [T]	生活と福祉/心理と教育 社会と産業	○	(H)	
12	地域包括ケアシステムと在宅医療('18) [1単位]	生活と福祉	○		
13	グリーフサポートと死生学('24) [R]	生活と福祉/心理と教育	○	(I)	
14	地域生活を支える社会福祉と法('24) [R]	生活と福祉/社会と産業	○	(J)	
15	情報社会と国際ボランティア活動('24) [T]	情報/社会と産業	○	(K)	
16	健康と社会('23) [R] 健康と社会('17)	生活と福祉/社会と産業			
17	運動と健康('22) [T] 運動と健康('18)	基盤科目			
18	公衆衛生('24) [R] 公衆衛生('19)、公衆衛生('15)	生活と福祉			
19	リスク社会の家族変動('20) [R]	生活と福祉/社会と産業			
20	少子化時代の子育て—法と政策('25) [1単位]	基盤科目			
21	食と健康('24) [T]	生活と福祉/社会と産業 自然と環境		(L)	
22	地域・在宅看護論('23) [T] 在宅看護論('17)	生活と福祉			
23	認知症と生きる('21) [T]	生活と福祉/心理と教育			
24	乳幼児の保育・教育('21) [R]	心理と教育			
25	雇用社会と法('21) [T]	社会と産業		(M)	
26	人生100年時代の家族と法('23) [T]	社会と産業		(N)	
27	都市と地域の社会学('24) [R] 都市と地域の社会学('18)	社会と産業/生活と福祉 社会と産業/心理と教育 人間と文化			
28	社会調査の基礎('19) [T] 社会調査の基礎('15)、社会調査('09) 社会調査('05)	社会と産業/生活と福祉 心理と教育			
29	福祉心理学('21) [R]	心理と教育			
30	障害者・障害児心理学('21) [R]	心理と教育			
(閉講科目)					以下の科目の単位を修得済みの場合、科目の有効期限(閉講年度から10年間)までは認証取得条件として認めます。 (6、7ページの「授業科目群の見方(全認証プラン共通)」参照)
	科目名	分野もしくはコース名	必修科目等	備考	
31	社会福祉への招待('16)	生活と福祉	○	(A)	
32	人間にとって貧困とは何か('19)	生活と福祉/社会と産業	○	(B)	
33	高齢期の生活変動と社会的方策('19)	生活と福祉	○	(C)	
34	社会保障の国際動向と日本の課題('19)	生活と福祉	○	(D)	
35	社会保険のしくみと改革課題('16)	生活と福祉	○	(E)	
36	社会福祉実践の理論と実際('18)	生活と福祉/社会と産業	○	(F)	
37	地域福祉の現状と課題('18)	生活と福祉/社会と産業	○	(G)	
38	障害を知り共生社会を生きる('17)	生活と福祉/心理と教育	○	(H)	
39	死生学のフィールド('18)	生活と福祉/心理と教育	○	(I)	
40	社会福祉と法('20) 社会福祉と法('16)	生活と福祉/社会と産業	○	(J)	
41	情報化社会と国際ボランティア('19)	情報/心理と教育	○	(K)	
42	食と健康('18) 食と健康('12)、食と健康('06) 食品の成分と機能('03)	生活と福祉/自然と環境		(L)	
43	雇用社会と法('17)	社会と産業/生活と福祉		(M)	
44	家族と高齢社会の法('17)	社会と産業/生活と福祉		(N)	
45	地域と都市の防災('16)	社会と産業			
46	移動と定住の社会学('16)	社会と産業			
47	女性のキャリアデザイン入門('16) 【1単位】	生活と福祉/心理と教育			
48	人口減少社会の構想('17)	生活と福祉			
49	女性のキャリアデザインの展開('17) 【1単位】	生活と福祉/心理と教育			
50	子育て支援—法と政策を学ぶ('20) 【1単位】	基盤科目			

③社会生活企画プラン

認証状の名称	社会生活プランナー [注] 2015年度発行分までの認証状の名称は「社会企画士」となります。
--------	--

(認証の教育目標と社会的意義)

21世紀社会においては、個人、集団、コミュニティ、また社会全般において、社会的なプランを構築することが強く望まれている。具体的には、個人のライフ・プラン(生き甲斐、生活、消費、高齢期など)、組織のプラン(組織運営、経済計画、政策など)、コミュニティのプラン(食・住・福祉、教育、文化、建築、都市など)、また社会全体のプランなどについて、社会的プランを科学的に形成できる能力が必要とされる。本プランでは、これらに関する知識と技能を備えた「社会生活プランナー」の育成を目指す。
※「社会生活プランナー」は、放送大学独自の呼称です。

(認証取得後の目的・目指せる道・資格等)

①当科目群認証を取得して、社会生活プランナーとしてのキャリア形成を行うことを目的としている。②プランナーとして、社会計画・コミュニティ計画・生涯設計などへ参画することを目指す。③社会生活プランナーとしてのキャリアを積み上げて、公共機関や民間機関などの専門プランナーの資格取得を目指す。

(認証取得条件)

閉講科目を含む授業科目群93単位の中から、選択必修科目8単位以上を含めて、20単位以上を修得すること。

○：選択必修科目、無印：選択科目

※「備考」欄に(A)、(B)等の表記がある科目については、同じ記号の科目を複数修得していても、認証取得条件として認められるのは1科目分の単位数のみです。

授業科目群の構成

科目名	分野もしくはコース名	必修科目等	備考
社会学概論('25) [T]	社会と産業/心理と教育	○	(A)
社会学概論('21)			
ライフステージと社会保障('20) [R]	生活と福祉/社会と産業	○	(B)
生涯学習を考える('17) [O]	心理と教育/人間と文化	○	
災害社会学('20) [T]	社会と産業	○	
都市と地域の社会学('24) [R]	社会と産業/生活と福祉	○	
都市と地域の社会学('18)			
市民自治の知識と実践('21) [R]	基盤科目		
健康と社会('23) [R]	生活と福祉/社会と産業		
健康と社会('17)			
健康への力の探究('19) [R]	生活と福祉		
貧困の諸相('23) [R]	生活と福祉/心理と教育 社会と産業		(C)
社会福祉—新しい地平を拓く('22) [T]	生活と福祉/心理と教育		(D)
社会と産業の倫理('21) [R]	基盤科目		
社会統計学入門('24) [R]	社会と産業/生活と福祉		
社会統計学入門('18)	心理と教育/情報		
社会統計学入門('12)			
ソーシャルシティ('23) [T]	生活と福祉/心理と教育 社会と産業/情報		(E)
リスク社会の家族変動('20) [R]	生活と福祉/社会と産業		
行政学講説('24) [R]	社会と産業/心理と教育		(F)
財政と現代の経済社会('19) [T]	社会と産業		
財政と現代の経済社会('15)			
緑地環境の計画('21) [O]	社会と産業		
人生100年時代の家族と法('23) [T]	社会と産業		(G)
地域生活を支える社会福祉と法('24) [R]	生活と福祉/社会と産業		(H)
色を探究する('23) [T]	心理と教育/人間と文化 自然と環境		(I)
海からみた産業と日本('22) [R]	社会と産業		(J)
世界の中の日本外交('21) [T]	社会と産業		
官民の人的資源論('24) [O] 【1単位】	社会と産業		
環境と社会('21) [R]	社会と産業		
情報技術が拓く人間理解('20) [T]	情報/心理と教育 自然と環境		
暮らしに活かす不動産学('22) [T]	生活と福祉/社会と産業		(K)
経営学入門('24) [R]	社会と産業/心理と教育		(L)
持続可能な社会と生活('23) [T]	生活と福祉/心理と教育 社会と産業		
リスクコミュニケーションの探究('23) [R]	生活と福祉/心理と教育		
全体主義と新自由主義のあいだ('23) [O]	社会と産業/人間と文化		

(閉講科目) 以下の科目の単位を修得済みの場合、科目の有効期限(開講年度から10年間)までは認証取得条件として認めます。
(6、7ページの「授業科目群の見方(全認証プラン共通)」参照)

科目名	分野もしくはコース名	必修科目等	備考
31 社会学入門('16)	社会と産業	○	(A)
32 社会保険のしくみと改革課題('16)	生活と福祉	○	(B)
33 移動と定住の社会学('16)	社会と産業	○	
34 人口減少社会の構想('17)	生活と福祉	○	
35 都市と農山村からみる身近な経済('18)	社会と産業/人間と文化	○	
36 人間にとって貧困とは何か('19)	生活と福祉/社会と産業		(C)
37 社会福祉への招待('16)	生活と福祉		(D)
38 ソーシャルシティ('17)	生活と福祉/心理と教育		(E)
39 行政学概説('20)	社会と産業		(F)
40 現代の行政と公共政策('16)	社会と産業		(F)
41 家族と高齢社会の法('17)	社会と産業/生活と福祉		(G)
42 社会福祉と法('20)	生活と福祉/社会と産業		(H)
42 社会福祉と法('16)			
43 色と形を探究する('17)	心理と教育/社会と産業 人間と文化/情報 自然と環境		(I)
44 海からみた産業と日本('16)	社会と産業		(J)
45 新時代の組織経営と働き方('20)	社会と産業		
46 生活者のための不動産学への招待('18)	生活と福祉		(K)
46 生活者のための不動産学入門('13)			
47 経営学概論('18)	社会と産業		(L)

[注] 2015年度発行分までの認証状の名称は「社会企画士」となります。

④心理学基礎プラン

認証状の名称	心理学基礎
<p>(認証の教育目標と社会的意義)</p> <p>本プランは、心理学に関する科目を体系的に学んでいくうえで、自らの学びの状況を確認し、今後の学びの指針として生かすことを目的とする。心理学を包括的に理解するうえで欠かせない基本的知識の獲得、入門・初級レベルから中間段階を経て、さらにより高いレベルに到達することを目指し、まず、中間レベルまでの学習達成を図る。</p>	
<p>(認証取得後の目的・目指せる道・資格等)</p> <p>①認定心理士をはじめとする心理系の資格の取得を目指す。②大学院(人間発達科学プログラム、臨床心理学プログラムなど)に進学するための基礎的な知識を身につける。</p>	
<p>(認証取得条件)</p> <p>閉講科目を含む授業科目群46単位の中から、必修科目2単位、選択必修科目8単位以上を含めて、20単位以上を修得すること。 ◎：必修科目、○：選択必修科目、無印：選択科目 ※「備考」欄に㉠、㉡等の表記がある科目については、同じ記号の科目を複数修得していても、認証取得条件として認められるのは1科目分の単位数のみです。</p>	

授業科目群の構成

	科目名	分野もしくはコース名	必修科目等	備考
1	心理学概論('24) ㉠ 心理学概論('18)	心理と教育/人間と文化	◎	
2	心理と教育へのいざない('24) ㉡	基盤科目	○	㉠
3	教育・学校心理学('20) ㉢	心理と教育	○	
4	発達心理学概論('17) ㉣	心理と教育	○	
5	心理学統計法('21) ㉤	心理と教育/情報	○	㉡
6	心理学研究法('20) ㉥	心理と教育	○	
7	錯覚の科学('20) ㉦ 錯覚の科学('14)	心理と教育/自然と環境		
8	知覚・認知心理学('23) ㉧ 知覚・認知心理学('19)	心理と教育		
9	神経・生理心理学('22) ㉨	心理と教育		㉢
10	臨床心理学概論('20) ㉩	心理と教育		
11	社会・集団・家族心理学('20) ㉪	心理と教育/社会と産業		
12	産業・組織心理学('20) ㉫	心理と教育/社会と産業		
13	司法・犯罪心理学('20) ㉬	心理と教育		
14	心理的アセスメント('20) ㉭	心理と教育		
15	学習・言語心理学('25) ㉮ 学習・言語心理学('21)	心理と教育 心理と教育/人間と文化		

(閉講科目) 以下の科目の単位を修得済みの場合、科目の有効期限(開講年度から10年間)までは認証取得条件として認めます。
(6、7ページの「授業科目群の見方(全認証プラン共通)」参照)

	科目名	分野もしくはコース名	必修科目等	備考
16	心理と教育へのいざない('18)	心理と教育	○	㉠
17	発達科学の先人たち('16)	心理と教育	○	
18	心理統計法('17)	心理と教育/人間と文化	○	㉡
19	比較認知科学('17) 比較行動学('11)	心理と教育/人間と文化		
20	乳幼児心理学('16) 乳幼児心理学('12)	心理と教育		
21	生理心理学('18)	心理と教育		㉢
22	交通心理学('17) 交通心理学('12)	心理と教育		
23	危機の心理学('17)	心理と教育		

⑤臨床心理学基礎プラン

認証状の名称	臨床心理学基礎
<p>(認証の教育目標と社会的意義)</p> <p>本プランは、臨床心理学の学習にとって欠かせない基本的知識の獲得を目的とする。臨床心理学は、人と人との実践的にかかわりに関する学問であるので、専門的には大学院臨床心理学プログラムでの学習が必要となるが、まず本プランによって、学部段階で身につけるべき臨床心理学の基礎の習得を目指す。</p> <p>※なお、臨床心理士資格取得を希望される方は、放送大学「大学院案内」の臨床心理学プログラムの頁をご参照ください。</p>	
<p>(認証取得後の目的・目指せる道・資格等)</p> <p>上記(認証の教育目標と社会的意義)をご参照ください。</p>	
<p>(認証取得条件)</p> <p>閉講科目を含む授業科目群58単位の中から、必修科目4単位、選択必修科目14単位以上を含めて、20単位以上を修得すること。</p> <p>◎：必修科目、○：選択必修科目、無印：選択科目</p> <p>※「備考」欄に①、②等の表記がある科目については、同じ記号の科目を複数修得していても、認証取得条件として認められるのは1科目分の単位数のみです。</p>	

授業科目群の構成

	科目名	分野もしくはコース名	必修科目等	備考
1	臨床心理学概論('20) ㊦	心理と教育	◎	
2	心理カウンセリング序説('21) ㊦	心理と教育	◎	
3	感情・人格心理学('21) ㊱	心理と教育	○	
4	思春期・青年期の心理臨床('19) ㊱	心理と教育	○	
5	精神分析とユング心理学('23) ㊱	心理と教育	○	①
6	認知行動療法('20) ㊦ 認知行動療法('14)	心理と教育	○	
7	乳幼児・児童の心理臨床('17) ㊦	心理と教育	○	
8	中高年の心理臨床('20) ㊱	心理と教育	○	
9	心理的アセスメント('20) ㊱ ※2023年度から追加	心理と教育	○	[注]
10	イメージの力('24) ㊦	心理と教育	○	②
11	発達心理学概論('17) ㊱	心理と教育		
12	教育・学校心理学('20) ㊦	心理と教育		
13	肢体不自由児の教育('20) ㊦	心理と教育		
14	心理学統計法('21) ㊦	心理と教育/情報		③
15	心理学研究法('20) ㊦	心理と教育		
16	社会・集団・家族心理学('20) ㊦	心理と教育/社会と産業		
17	神経・生理心理学('22) ㊦	心理と教育		④
18	障害者・障害児心理学('21) ㊱ ※2023年度から追加	心理と教育		[注]
19	今日のメンタルヘルス('23) ㊦ 今日のメンタルヘルス('19) ※2023年度から追加	生活と福祉/心理と教育		[注]
20	福祉心理学('21) ㊱ ※2023年度から追加	心理と教育		[注]
21	心理臨床における法・倫理・制度('21) ㊱ ※2023年度から追加	心理と教育		[注]
22	特別支援教育総論('25) ㊱	心理と教育		
23	知的障害教育総論('25) ㊱	心理と教育		

(閉講科目) 以下の科目の単位を修得済みの場合、科目の有効期限(開講年度から10年間)までは認証取得条件として認めます。(6、7ページの「授業科目群の見方(全認証プラン共通)」参照)

	科目名	分野もしくはコース名	必修科目等	備考
24	心理臨床と身体の病('16)	心理と教育	○	
25	精神分析とユング心理学('17) 精神分析とユング心理学('11)	心理と教育	○	①
26	心理臨床とイメージ('16) 心理臨床とイメージ('10)	心理と教育	○	②
27	心理統計法('17)	心理と教育/人間と文化		③
28	比較認知科学('17) 比較行動学('11)	心理と教育/人間と文化		
29	生理心理学('18)	心理と教育		④

[注] 科目No.9「心理的アセスメント('20)」と科目No.18「障害者・障害児心理学('21)」、科目No.19「今日のメンタルヘルス('19)」、科目No.20「福祉心理学('21)」、科目No.21「心理臨床における法・倫理・制度('21)」は2023年度より追加となりましたが、2022年度以前にこの科目の単位を修得した場合も修得単位として認定します。

⑥異文化コミュニケーションプラン

認証状の名称	異文化理解支援
(認証の教育目標と社会的意義) 自分と異なる文化背景を持つ人と交流できることは、我々にとって必要不可欠なスキルである。同時に、我々が自分自身の文化背景に対して客観的な目を持つことが、異なる文化背景を持つ人々と交流を行う際には必ず必要になる。本プランでは、日本語教育や地域のボランティア活動など、異文化コミュニケーションの現場に関心を持つ方が、文化背景が異なる相手と交流を図る際に必要な態度を養成することを目的とする。	
(認証取得後の目的・目指せる道・資格等) ①多文化共生が求められる現代の日本で、文化背景が異なる他者と共存していくために必要な基礎的知識を獲得すると共に、自分が持っている文化背景を相対化する視点を獲得することを目的とする。②全科履修生は当認証取得の際に履修した科目を活用して、卒業研究の履修や修士課程での更なる学びに幅広い視点から取り組んで頂きたい。	
(認証取得条件) 開講科目を含む授業科目群147単位(「任意の外国語科目【4単位】」を含む。)の中から、必修科目4単位、選択必修科目2単位を含めて、20単位以上を修得すること。 ◎：必修科目、○：選択必修科目、無印：選択科目 ※「備考」欄に①、②等の表記がある科目については、同じ記号の科目を複数修得していても、認証取得条件として認められるのは1科目分の単位数のみです。	

授業科目群の構成

科目名	分野もしくはコース名	必修科目等	備考
1 任意の外国語科目【4単位】 【面接授業も可】T、R、A、B	外国語科目	◎	[注1]
2 多文化共生のコミュニケーション(24)R	人間と文化/心理と教育	○	①
3 日本語学入門(20)T	人間と文化	○	
4 国際理解のために(19)R	基盤科目		
5 社会と産業の倫理(21)R	基盤科目		
6 歴史のなかの人間(22)T	人間と文化		
7 世界文学への招待(22)T	人間と文化		②
8 日本語教育学入門(24)T	人間と文化/心理と教育		
9 西洋哲学の根源(22)R	人間と文化/社会と産業		③
10 テーマで学ぶ日本教育史(24)R	心理と教育		
11 社会政策の国際動向と日本の位置(23)T	生活と福祉/社会と産業		④
12 日本の文化と教育(23)R	心理と教育/人間と文化		
13 世界の学校(24)R	心理と教育/人間と文化		
14 学習・言語心理学(25)T 学習・言語心理学(21) ※2025年度から追加	心理と教育/人間と文化		[注2]
15 新興アジアの政治と経済(24)R	社会と産業/人間と文化		⑤
16 日本政治外交史(25)T	社会と産業/人間と文化		⑥
17 現代の国際政治(22)T	社会と産業/人間と文化		⑦
18 ヨーロッパ政治史(24)R ヨーロッパ政治史(20)	社会と産業/人間と文化		
19 SDGs下のアジア産業論(23)R	社会と産業		
20 現代アメリカの政治と社会(24)T	社会と産業/人間と文化		
21 国際法(25)R	社会と産業		
22 西洋政治思想の文脈(25)R	社会と産業/心理と教育 人間と文化		
23 NPO・NGOの世界(25)R NPO・NGOの世界(21) ※2025年度から追加	社会と産業/心理と教育		[注2]
24 企業経営の国際展開(25)R	社会と産業		
25 中国と東部ユーラシアの歴史(20)T	人間と文化		
26 総合人類学としてのヒト学(18)R	人間と文化/心理と教育		
27 「人新世」時代の文化人類学(20)T	人間と文化		
28 フィールドワークと民族誌(24)T	人間と文化/心理と教育 社会と産業		⑧
29 人文地理学からみる世界(22)T	人間と文化		⑨
30 哲学・思想を今考える(23)R 哲学・思想を今考える(18)	人間と文化/社会と産業		
31 現代に生きる現象学(23)R	人間と文化/心理と教育		
32 英米哲学の挑戦(23)R	人間と文化		
33 原典で読む日本の思想(24)R	人間と文化/社会と産業		⑩
34 西洋音楽史(21)R	人間と文化		
35 韓国朝鮮の歴史と文化(21)R	人間と文化		
36 都市から見るヨーロッパ史(21)T	人間と文化		
37 近現代ヨーロッパの歴史(22)T	人間と文化/社会と産業		
38 世界文学の古典を読む(20)R	人間と文化		
39 文学・芸術・武道にみる日本文化(19)T	人間と文化		
40 西洋の美学・美術史(24)T	人間と文化		

[注1] 科目No.1「任意の外国語科目」については、同一もしくは異なる外国語を合計4単位修得すること。放送授業、オンライン授業、面接授業いずれも可。ただし、認証プランの趣旨からして、コミュニケーションを重視する面接授業の履修を推奨します。なお、外国語科目であれば、科目の開講年度に関わらず過去に修得した単位も認めます。外国語科目を4単位以上修得しても、認証取得条件として認められるのは4単位のみです。また、他大学等で修得した単位は認められませんので、本学の外国語科目を履修してください。

[注2] 科目No.14「学習・言語心理学(21)」と科目No.23「NPO・NGOの世界(21)」は2025年度より追加となりましたが、2024年度以前にこの科目の単位を修得した場合も修得単位として認定します。

[注3] 科目No.48「時間を究める(23)」は2024年度より追加となりましたが、2023年度にこの科目の単位を修得した場合も修得単位として認定します。

科目名	分野もしくはコース名	必修科目等	備考
41 アメリカ史：世界史の中で考える(24)T	人間と文化/社会と産業		
42 西アジアの歴史(24)R	人間と文化/社会と産業		
43 映画芸術への招待(25)T	人間と文化		
44 「日本語らしさ」とは何か(25)R	人間と文化/心理と教育		
45 情報社会と国際ボランティア活動(24)T	情報/社会と産業		⑪
46 世界の中の日本外交(21)T	社会と産業		
47 色を探究する(23)T	心理と教育/人間と文化 自然と環境		
48 時間を究める(23)R 【1単位】 ※2024年度から追加	人間と文化/心理と教育 社会と産業/自然と環境		[注3]
49 開発経済学：アジア社会の変容(24)R	社会と産業		⑬
50 日本経済の比較史(24)T	社会と産業		⑭

(開講科目) 以下の科目の単位を修得済みの場合、科目の有効期限(開講年度から10年間)までは認証取得条件として認めます。
(6、7ページの「授業科目群の見方(全認証プラン共通)」参照)

科目名	分野もしくはコース名	必修科目等	備考
51 コミュニケーション学入門(19)	人間と文化/心理と教育	○	①
52 博物館で学ぶ文化人類学の基礎(20)	人間と文化/心理と教育		
53 東南アジアの歴史(18)	人間と文化		
54 世界文学への招待(16)	人間と文化		②
55 西洋哲学の起源(16)	人間と文化		③
56 ラテン語の世界(16)	人間と文化		
57 社会保障の国際動向と日本の課題(19)	生活と福祉		④
58 障害を知り共生社会を生きる(17)	生活と福祉/心理と教育		
59 東アジアの政治社会と国際関係(16)	社会と産業		⑤
60 現代東アジアの政治と社会(20)	社会と産業/人間と文化		⑥
61 日本政治外交史(19)	社会と産業/人間と文化		⑦
62 現代の国際政治(18) 現代の国際政治(13)	社会と産業/人間と文化		⑧
63 フィールドワークと民族誌(17)	人間と文化		⑨
64 アジア産業論(17)	社会と産業		
65 現代人文地理学(18)	人間と文化/社会と産業		⑩
66 現代フランス哲学に学ぶ(17)	人間と文化		
67 日本仏教を捉え直す(18)	人間と文化		⑪
68 情報社会と国際ボランティア(19)	情報/心理と教育		⑫
69 開発経済学：アジアの農村から(20)	社会と産業/人間と文化		⑬
70 グローバル経済史(18)	社会と産業/人間と文化		⑭
71 中東の政治(20)	社会と産業/人間と文化		⑮
72 パレスチナ問題(16)	社会と産業		⑯
73 アメリカの芸術と文化(19)	人間と文化		

⑦宇宙・地球科学プラン

認証状の名称	宇宙・地球科学
--------	---------

(認証の教育目標と社会的意義)

自然科学では、現象を個々の要素に分解して、素過程を支配する一般法則を理解することが重要である。しかし一方で、実際の自然現象は、様々な要素が組み合わされてシステムを構成しているので、システムの振る舞いを理解することも重要であり、宇宙・地球はその典型例である。本プランは、自然のシステムを理解し、さらには社会・人文的システムについて理解を深めることを目的とする。

(認証取得後の目的・目指せる道・資格等)

①全科履修生については、卒業研究を履修し、認証取得で得た知識を基にして論文作成を目指す。②大学院(自然環境科学プログラムなど)に進学して研究の実践による視野の拡大を目指し、将来、博士課程への進学、大学教員、研究者への道を目指す。③認証取得で得た体系的自然観を基に、他大学での理科教員資格取得や、行政における災害・環境・エネルギーやジオパーク関連部門、気象予報士、科学博物館や公開天文台の科学コミュニケーターを目指す。

(認証取得条件)

閉講科目を含む授業科目群42単位の中から、選択必修科目8単位以上を含めて、20単位以上を修得すること。

○：選択必修科目、無印：選択科目

※「備考」欄に(A)、(B)等の表記がある科目については、同じ記号の科目を複数修得していても、認証取得条件として認められるのは1科目分の単位数のみです。

授業科目群の構成

科目名	分野もしくはコース名	必修科目等	備考
自然科学はじめの一步('22) [T]	基盤科目	○	
自然科学はじめの一步('15)			
はじめての気象学('21) [T]	自然と環境	○	
はじめての気象学('15)、身近な気象学('10)			
宮沢賢治と宇宙('24) [T]	自然と環境/人間と文化	○	(A)
物理の世界('24) [T]	自然と環境	○	(B)
生物環境の科学('25) [T]	自然と環境	○	
生物環境の科学('16)			
ジオストーリー('25) [T]	自然と環境	○	
ダイナミックな地球('21) [T]	自然と環境	○	
ダイナミックな地球('16)			
宇宙の誕生と進化('19) [T]	自然と環境	○	
太陽と太陽系の科学('18) [T]	自然と環境	○	
初歩からの数学('18) [T]	基盤科目		
初歩からの数学('12)			
初歩からの化学('18) [T]	自然と環境		
初歩からの化学('12)			
初歩からの生物学('24) [T]	自然と環境		
初歩からの生物学('18)			
初歩からの生物学('14)			
解析入門('24) [T]	情報/自然と環境		
解析入門('18)、解析入門('14)			
解析入門('08)			
入門線型代数('19) [T]	自然と環境		
入門線型代数('14)、入門線型代数('09)			
線型代数入門('03)			
力と運動の物理('19) [T]	自然と環境		
力と運動の物理('13)			
生物の進化と多様化の科学('17) [T]	自然と環境/生活と福祉		
場と時間空間の物理('20) [T]	自然と環境		
量子物理学('21) [T]	自然と環境		
正多面体と素数('21) [T]	自然と環境		

(閉講科目) 以下の科目の単位を修得済みの場合、科目の有効期限(開講年度から10年間)までは認証取得条件として認めます。(6、7ページの「授業科目群の見方(全認証プラン共通)」参照)

科目名	分野もしくはコース名	必修科目等	備考
20 初歩からの宇宙の科学('17)	自然と環境	○	(A)
21 物理の世界('17)	自然と環境	○	(B)
物理の世界('11)、物理の世界('07)			
物理の世界('03)			

⑧環境科学プラン

認証状の名称	環境科学の基礎
--------	---------

(認証の教育目標と社会的意義)

文明生活の向上を目指す人類の欲求は、様々な製品の開発、使用、廃棄を導き、これらが地球温暖化、オゾン層破壊、海洋汚染、生態系の破壊など、私たちの生きる自然環境にますますの悪化をもたらしていると考えられている。この矛盾を解決し、持続可能で発展的な社会をつくることは、21世紀の人類最大の課題であり、それに対する判断が個人のレベルでも問われている。本プランでは、これらの問題について、特に科学的側面からその基本的問題を考える。

(認証取得後の目的・目指せる道・資格等)

①全科目履修生については、卒業研究を履修し、認証取得で得た知識を基にして論文作成を目指す。②大学院(自然環境科学プログラムなど)に進学して研究を続け、将来、博士課程への進学や教員、研究者への道を目指す。③認証取得で得た基礎科学力をもとに、技術士や環境アセスメント士をはじめとする環境コンサルタントを行うのに必要な資格取得を目指す。

(認証取得条件)

閉講科目を含む授業科目群51単位の中から、選択必修科目8単位以上を含めて、20単位以上を修得すること。

○：選択必修科目、無印：選択科目

※「備考」欄に(A)、(B)等の表記がある科目については、同じ記号の科目を複数修得していても、認証取得条件として認められるのは1科目分の単位数のみです。

授業科目群の構成

科目名	分野もしくはコース名	必修科目等	備考
はじめての気象学('21) T	自然と環境	○	
はじめての気象学('15) 身近な気象学('10)			
物理の世界('24) T	自然と環境	○	(A)
かたちの化学—化学の考え方入門('23) T	自然と環境/生活と福祉	○	(B)
宮沢賢治と宇宙('24) T	自然と環境/人間と文化	○	(C)
生物環境の科学('25) T	自然と環境	○	
生物環境の科学('16)			
ダイナミックな地球('21) T	自然と環境	○	
ダイナミックな地球('16)			
分子の変化からみた世界('23) T	自然と環境/生活と福祉	○	(D)
エントロピーからはじめる熱力学('20) R	自然と環境	○	(E)
身近な統計('24) T	基盤科目		
身近な統計('18)、身近な統計('12)			
身近な統計('07)			
入門微分積分('22) T	自然と環境/情報		
入門微分積分('16)、微分と積分('10)			
初歩からの微積分('06)、初等微分積分学('02)			
微積分入門 I ('98)、微分積分学 I			
微分積分学、基礎数学 I			
環境を可視化する技術と応用('23) T	社会と産業/生活と福祉 情報/自然と環境		
緑地環境の計画('21) O	社会と産業		
量子物理学('21) T	自然と環境		
量子化学('19) T	自然と環境		
現代を生きるための化学('22) R	自然と環境		(F)
物理演習('16) O 【1単位】	自然と環境		
環境と社会('21) R	社会と産業		
エネルギーと社会('19) T	社会と産業/自然と環境		

(閉講科目) 以下の科目の単位を修得済みの場合、科目の有効期限(開講年度から10年間)までは認証取得条件として認めます。
(6、7ページの「授業科目群の見方(全認証プラン共通)」参照)

科目名	分野もしくはコース名	必修科目等	備考
物理の世界('17)	自然と環境	○	(A)
物理の世界('11)、物理の世界('07) 物理の世界('03)			
20 化学結合論—分子の構造と機能('17)	自然と環境	○	(B)
21 初歩からの宇宙の科学('17)	自然と環境	○	(C)
22 化学反応論—分子の変化と機能('17)	自然と環境	○	(D)
23 エントロピーからはじめる熱力学('16)	自然と環境	○	(E)
24 生活環境と情報認知('20)	生活と福祉		
25 現代を生きるための化学('18)	自然と環境		(F)
26 物質・材料工学と社会('17)	社会と産業/自然と環境		

⑨芸術系博物館プラン

認証状の名称	芸術系博物館活動支援
--------	------------

(認証の教育目標と社会的意義)

博物館の中には、美術館をはじめ、楽器博物館・演劇博物館・文学館など、芸術に関わる博物館施設が少なからずある。そうした博物館の中には、来館者に対する案内や展示解説、博物館を訪れる児童・生徒に対する学習指導、また収蔵資料の整理・登録作業の手伝いなど、ボランティアによる博物館活動支援を求めているところもある。本プランでは、そうした社会的需要に応えるため、博物館関連科目や芸術関係科目の履修を通じて、芸術系博物館の活動支援に携わる人材の育成を図る。

※本プランを修得しても、学芸員の資格は得られません。学芸員資格取得を目指す方は、冊子「教員免許状及び各種資格について」をご確認ください。

(認証取得後の目的・目指せる道・資格等)

①全科履修生については、卒業研究を履修し、認証取得で得た知識を基にして論文作成を目指す。②大学院（人文学プログラムなど）に進学して研究を続け、将来、博士課程への進学や教員、研究者への道を目指す。③認証取得で得た基礎力をもとに、芸術系博物館の活動支援（ボランティアによる来館者に対する案内や展示解説、博物館を訪れる児童・生徒に対する学習指導、また収蔵資料の整理・登録作業の手伝いなど）に携わることを目指す。

(認証取得条件)

閉講科目を含む授業科目群68単位の中から、必修科目4単位、選択必修科目2単位以上を含めて、20単位以上を修得すること。

◎：必修科目、○：選択必修科目、無印：選択科目

※「備考」欄に㉠、㉡等の表記がある科目については、同じ記号の科目を複数修得していても、認証取得条件として認められるのは1科目分の単位数のみです。

授業科目群の構成

科目名	分野もしくはコース名	必修科目等	備考
1 博物館概論(23) ㉠	人間と文化/心理と教育 自然と環境	◎	㉠
2 著作権法(22) ㉡	社会と産業/情報	◎	㉡
3 博物館資料論(25) ㉢	人間と文化/心理と教育 自然と環境	○	㉢
4 博物館教育論(22) ㉣	人間と文化/心理と教育	○	㉣
5 博物館展示論(25) ㉤	人間と文化/心理と教育 自然と環境	○	㉤
6 博物館資料保存論(25) ㉥	人間と文化/心理と教育 自然と環境	○	㉥
7 博物館情報・メディア論(25) ㉦	人間と文化/心理と教育 情報/自然と環境	○	㉦
8 博物館経営論(23) ㉧	人間と文化/心理と教育	○	㉧
9 西洋の美学・美術史(24) ㉨	人間と文化	○	㉨
10 世界文学への招待(22) ㉩	人間と文化		㉩
11 西洋音楽史(21) ㉪	人間と文化		
12 舞台芸術の魅力(17) ㉫ 舞台芸術への招待(11)	人間と文化		
13 都市から見るヨーロッパ史(21) ㉬	人間と文化		
14 世界文学の古典を読む(20) ㉭	人間と文化		
15 樋口一葉の世界(23) ㉮	人間と文化		㉮
16 色を探究する(23) ㉯	心理と教育/人間と文化 自然と環境		㉯
17 『方丈記』と『徒然草』(18) ㉰	人間と文化		
18 日本美術史の近代とその外部(18) ㉱	人間と文化		
19 文学・芸術・武道にみる日本文化(19) ㉲ ※2020年度から追加	人間と文化		㉲
20 映画芸術への招待(25) ㉳	人間と文化		

(閉講科目) 以下の科目の単位を修得済みの場合、科目の有効期限(開講年度から10年間)までは認証取得条件として認めます。(6、7ページの「授業科目群の見方(全認証プラン共通)」参照)

科目名	分野もしくはコース名	必修科目等	備考
21 博物館概論(19)	人間と文化/心理と教育	◎	㉠
22 著作権法(18)	社会と産業/情報	◎	㉡
23 博物館資料論(18)	人間と文化	○	㉢
24 博物館教育論(16)	人間と文化	○	㉣
25 博物館展示論(16)	人間と文化	○	㉤
26 博物館資料保存論(19)	人間と文化	○	㉥
27 博物館情報・メディア論(18)	人間と文化	○	㉦
28 博物館経営論(19)	人間と文化	○	㉧
29 西洋芸術の歴史と理論(16) 芸術史と芸術理論(10) 芸術の理論と歴史(06) 芸術の理論と歴史(02)	人間と文化	○	㉨
30 日本文学における古典と近代(18)	人間と文化		
31 世界文学への招待(16)	人間と文化		㉩
32 日本文学の名作を読む(17)	人間と文化		㉪
33 色と形を探究する(17)	心理と教育/社会と産業 人間と文化/情報 自然と環境		㉯
34 アメリカの芸術と文化(19) ※2020年度から追加	人間と文化		㉲

[注] 科目No.19「文学・芸術・武道にみる日本文化(19)」と科目No.34「アメリカの芸術と文化(19)」は2020年度より選択科目に追加となりましたが、2019年度にこの科目の単位を修得した場合も修得単位として認定します。

※ 2012年4月に博物館法施行規則が改正され、「博物館に関する科目」の構成が大幅に変更されました。それに伴い、本プランの構成も変更されていますが、2012年3月以前から認証取得を目指してきた方にとって新たに履修しなくてはならない科目が増えるということはありません。

本プランは、(公財)日本博物館協会より推薦をいただいています

⑩歴史系博物館プラン

認証状の名称	歴史系博物館活動支援
--------	------------

(認証の教育目標と社会的意義)

近年、歴史を学んだ人々の活動の場として、歴史系博物館や郷土資料館等におけるボランティア活動が注目されている。来館者への案内や解説、所蔵資料の整理、子供たちが地域の歴史を学ぶための指導等の社会貢献に加えて、ボランティア自身の創意による企画立案を行う機会も増えつつある。本プランでは、この新しい社会的動向に対応して、博物館学や歴史関連の科目を学ぶ中から、歴史を理解し、歴史文化遺産に関する知識を身につけ、近隣の地域文化を再発見する力を養うことを目的とする。

※本プランを修得しても、学芸員の資格は得られません。学芸員資格取得を目指す方は、冊子「教員免許状及び各種資格について」をご確認ください。

(認証取得後の目的・目指せる道・資格等)

認証取得は、①歴史系博物館におけるボランティア活動への参加、②地域における歴史や文化に関するボランティア活動への参加、③学芸員資格取得、④歴史学分野の卒業研究の論文作成、⑤歴史学分野の幅広い視野と知識の獲得、などを旨とする場合に、基礎的な学習目標となる。

(認証取得条件)

閉講科目を含む授業科目群 78 単位の中から、必修科目 4 単位、選択必修科目 2 単位以上を含めて、20 単位以上を修得すること。

◎：必修科目、○：選択必修科目、無印：選択科目

※「備考」欄に㉠、㉡等の表記がある科目については、同じ記号の科目を複数修得していても、認証取得条件として認められるのは 1 科目分の単位数のみです。

授業科目群の構成

科目 No.	科目名	分野もしくはコース名	必修科目等	備考
1	博物館概論('23) ㉠	人間と文化/心理と教育 自然と環境	◎	㉠
2	著作権法('22) ㉡	社会と産業/情報	◎	㉡
3	日本近現代史('21) ㉢	人間と文化/社会と産業	○	
4	人文地理学からみる世界('22) ㉣	人間と文化	○	㉣
5	生涯学習を考える('17) ㉤	心理と教育/人間と文化	○	
6	博物館教育論('22) ㉥	人間と文化/心理と教育	○	㉥
7	博物館資料論('25) ㉦	人間と文化/心理と教育 自然と環境	○	㉦
8	博物館展示論('25) ㉧	人間と文化/心理と教育 自然と環境	○	㉧
9	博物館資料保存論('25) ㉨	人間と文化/心理と教育 自然と環境	○	㉨
10	博物館情報・メディア論('25) ㉩	人間と文化/心理と教育 情報/自然と環境	○	㉩
11	博物館経営論('23) ㉪	人間と文化/心理と教育	○	㉪
12	「人新世」時代の文化人類学('20) ㉫	人間と文化	○	
13	歴史のなかの人間('22) ㉬	人間と文化		
14	韓国朝鮮の歴史と文化('21) ㉭	人間と文化		
15	都市から見るヨーロッパ史('21) ㉮	人間と文化		
16	古代中世の日本('23) ㉯	人間と文化		㉯
17	フィールドワークと民族誌('24) ㉰	人間と文化/心理と教育 社会と産業		㉰
18	原典で読む日本の思想('24) ㉱	人間と文化/社会と産業		㉱
19	西アジアの歴史('24) ㉲	人間と文化/社会と産業		
20	日本美術史の近代とその外部('18) ㉳	人間と文化		
21	文学・芸術・武道にみる日本文化('19) ㉴ ※2020年度から追加	人間と文化		[注]
22	西洋の美学・美術史('24) ㉵	人間と文化		
23	日本の近世('20) ㉶	人間と文化/社会と産業		
24	中国と東部ユーラシアの歴史('20) ㉷	人間と文化		
25	アメリカ史：世界史の中で考える('24) ㉸	人間と文化/社会と産業		

(閉講科目) 以下の科目の単位を修得済みの場合、科目の有効期限(開講年度から10年間)までは認証取得条件として認めます。
(6、7ページの「授業科目群の見方(全認証プラン共通)」参照)

科目 No.	科目名	分野もしくはコース名	必修科目等	備考
26	博物館概論('19)	人間と文化/心理と教育	◎	㉠
27	著作権法('18)	社会と産業/情報	◎	㉡
28	現代人文地理学('18)	人間と文化/社会と産業	○	㉣
29	博物館教育論('16)	人間と文化	○	㉥
30	博物館資料論('18)	人間と文化	○	㉦
31	博物館展示論('16)	人間と文化	○	㉧
32	博物館資料保存論('19)	人間と文化	○	㉨
33	博物館情報・メディア論('18)	人間と文化/心理と教育 情報	○	㉩
34	博物館経営論('19)	人間と文化	○	㉪
35	日本の古代中世('17)	人間と文化		㉯
36	フィールドワークと民族誌('17)	人間と文化		㉰
37	日本仏教を捉え直す('18)	人間と文化		㉱
38	考古学('18)	人間と文化		
39	東南アジアの歴史('18)	人間と文化		

[注] 科目 No.21「文学・芸術・武道にみる日本文化('19)」は 2020 年度より選択科目に追加となりましたが、2019 年度にこの科目の単位を修得した場合も修得単位として認定します。

※ 2012 年 4 月に博物館法施行規則が改正され、「博物館に関する科目」の構成が大幅に変更されました。それに伴い、本プランの構成も変更されていますが、2012 年 3 月以前から認証取得を目指してきた方にとって新たに履修しなくてはならない科目が増えるということはありません。

本プランは、(公財)日本博物館協会より推薦をいただいています

⑪自然系博物館プラン

認証状の名称	自然系博物館活動支援
--------	------------

(認証の教育目標と社会的意義)

自然史及び理工部門を持つ総合博物館、動物園、水族館、植物園、プラネタリウム等、日本には現在約 240 の科学系博物館がある。人類にとつての地球という惑星の姿、そこに暮らす生命の歴史と生きた姿を伝える自然系博物館は、市民に開かれ、市民に支えられ、市民を啓発することを目的と機能としており、その活性のためにはボランティアによる協力と提言が欠かせない。本プランでは、博物館学の一般的な基礎の上に、自然科学の専門性も備え、自然系博物館の活動を支援する人材を育成する。

※本プランを修得しても、学芸員の資格は得られません。学芸員資格取得を目指す方は、冊子「教員免許状及び各種資格について」をご確認ください。

(認証取得後の目的・目指せる道・資格等)

①全科履修生については、卒業研究を履修し、認証取得で得た知識を基にして論文作成を目指す。②大学院(自然環境科学プログラムなど)に進学して研究を続け、将来、博士課程への進学や教員、研究者への道を目指す。③認証取得で得た基礎科学力をもとに、学芸員資格の取得を目指す。

(認証取得条件)

閉講科目を含む授業科目群 67 単位の中から、必修科目 2 単位、選択必修科目 2 単位以上を含めて、20 単位以上を修得すること。

◎：必修科目、○：選択必修科目、無印：選択科目

※「備考」欄に(A)、(B)等の表記がある科目については、同じ記号の科目を複数修得していても、認証取得条件として認められるのは 1 科目分の単位数のみです。

授業科目群の構成

科目名	分野もしくはコース名	必修科目等	備考
1 博物館概論('23) T	人間と文化/心理と教育 自然と環境	◎	(A)
2 宮沢賢治と宇宙('24) T	自然と環境/人間と文化	○	(B)
3 生物環境の科学('25) T 生物環境の科学('16)	自然と環境	○	
4 ダイナミックな地球('21) T ダイナミックな地球('16)	自然と環境	○	
5 博物館資料論('25) Q	人間と文化/心理と教育 自然と環境	○	(C)
6 博物館教育論('22) R	人間と文化/心理と教育	○	(D)
7 博物館資料保存論('25) T	人間と文化/心理と教育 自然と環境	○	(E)
8 博物館展示論('25) T	人間と文化/心理と教育 自然と環境	○	(F)
9 博物館情報・メディア論('25) T	人間と文化/心理と教育 情報/自然と環境	○	(G)
10 博物館経営論('23) R	人間と文化/心理と教育	○	(H)
11 植物の科学('21) T 植物の科学('15)、植物の科学('09)	自然と環境	○	
12 人文地理学からみる世界('22) T	人間と文化	○	(I)
13 物理の世界('24) T	自然と環境		(J)
14 かたちの化学—化学の考え方入門('23) T	自然と環境/生活と福祉		(K)
15 分子の変化からみた世界('23) T	自然と環境/生活と福祉		
16 宇宙の誕生と進化('19) T	自然と環境		
17 生物の進化と多様化の科学('17) T	自然と環境/生活と福祉		
18 量子物理学('21) T	自然と環境		
19 量子化学('19) T	自然と環境		
20 物理演習('16) Q 【1 単位】	自然と環境		
21 総合人類学としてのヒト学('18) R	人間と文化/心理と教育		
22 現代を生きるための化学('22) R	自然と環境		(L)

(閉講科目) 以下の科目の単位を修得済みの場合、科目の有効期限(開講年度から 10 年間)までは認証取得条件として認めます。(6、7 ページの「授業科目群の見方(全認証プラン共通)」参照)

科目名	分野もしくはコース名	必修科目等	備考
23 博物館概論('19)	人間と文化/心理と教育	◎	(A)
24 初歩からの宇宙の科学('17)	自然と環境	○	(B)
25 博物館資料論('18)	人間と文化	○	(C)
26 博物館教育論('16)	人間と文化	○	(D)
27 博物館資料保存論('19)	人間と文化	○	(E)
28 博物館展示論('16)	人間と文化	○	(F)
29 博物館情報・メディア論('18)	人間と文化/心理と教育 情報	○	(G)
30 博物館経営論('19)	人間と文化	○	(H)
31 現代人文地理学('18)	人間と文化/社会と産業	○	(I)
32 物理の世界('17) 物理の世界('11)、物理の世界('07) 物理の世界('03)	自然と環境		(J)
33 化学結合論—分子の構造と機能('17)	自然と環境		(K)
34 現代を生きるための化学('18)	自然と環境		(L)

※ 2012 年 4 月に博物館法施行規則が改正され、「博物館に関する科目」の構成が大幅に変更されました。それに伴い、本プランの構成も変更されていますが、2012 年 3 月以前から認証取得を目指してきた方にとって新たに履修しなくてはならない科目が増えるということはありません。

本プランは、(公財)日本博物館協会より推薦をいただいています

⑫工学基礎プラン

認証状の名称	工学基礎
<p>(認証の教育目標と社会的意義)</p> <p>工学は、実社会に役立つ技術の科学である。ここでの工学基礎プランでは、技術の基礎となる自然科学のいくつかの科目及び工学と社会とのかかわりあるいは現代と未来の社会の問題などを学ぶ。この認証科目群履修の目標は、工学を専門とする学生が必須とする教養を身につけてもらうことである。</p>	
<p>(認証取得後の目的・目指せる道・資格等)</p> <p>①全科履修生については、卒業研究を履修し、認証取得で得た知識を基にして論文作成を目指す。②大学院(社会経営科学プログラムなど)に進学して研究を続け、将来、博士課程への進学や高度専門技術者、研究者への道を目指す。</p>	
<p>(認証取得条件)</p> <p>閉講科目を含む授業科目群46単位の中から、20単位以上を修得すること。 ※「備考」欄に④、⑤等の表記がある科目については、同じ記号の科目を複数修得していても、認証取得条件として認められるのは1科目分の単位数のみです。</p>	

授業科目群の構成

	科目名	分野もしくはコース名	必修科目等	備考
1	身近な統計('24) ㊦ 身近な統計('18)、身近な統計('12) 身近な統計('07)	基盤科目		
2	初歩からの数学('18) ㊦ 初歩からの数学('12)	基盤科目		
3	共生のための技術者倫理('24) ㊧	社会と産業/心理と教育 情報		
4	初歩からの化学('18) ㊦ 初歩からの化学('12)	自然と環境		
5	初歩からの生物学('24) ㊦ 初歩からの生物学('18) 初歩からの生物学('14)	自然と環境		
6	物理の世界('24) ㊦	自然と環境		㊦
7	かたちの化学—化学の考え方入門('23) ㊦	自然と環境/生活と福祉		㊦
8	入門線型代数('19) ㊦ 入門線型代数('14)、入門線型代数('09) 線型代数入門('03)	自然と環境		
9	入門微分積分('22) ㊦ 入門微分積分('16)、微分と積分('10) 初歩からの微積分('06)、初等微積分学('02) 微積分入門I('98)、微積分学I 微積分学、基礎数学I	自然と環境/情報		
10	解析入門('24) ㊦ _※ 解析入門('18)、解析入門('14) 解析入門('08)	情報/自然と環境		
11	生物環境の科学('25) ㊦ 生物環境の科学('16)	自然と環境		
12	力と運動の物理('19) ㊦ 力と運動の物理('13)	自然と環境		
13	場と時間空間の物理('20) ㊦	自然と環境		
14	分子の変化からみた世界('23) ㊦	自然と環境/生活と福祉		㊦
15	メディアと知的財産('16) ㊧	情報		
16	問題解決の数理('21) ㊦ _※ 問題解決の数理('17)	情報		
17	海からみた産業と日本('22) ㊧	社会と産業		㊦

(閉講科目) 以下の科目の単位を修得済みの場合、科目の有効期限(開講年度から10年間)までは認証取得条件として認めます。
(6、7ページの「授業科目群の見方(全認証プラン共通)」参照)

	科目名	分野もしくはコース名	必修科目等	備考
18	環境問題のとらえ方と解決方法('17)	社会と産業/自然と環境		
19	物理の世界('17) 物理の世界('11)、物理の世界('07) 物理の世界('03)	自然と環境		㊦
20	化学結合論—分子の構造と機能('17)	自然と環境		㊦
21	化学反応論—分子の変化と機能('17)	自然と環境		㊦
22	海からみた産業と日本('16)	社会と産業		㊦
23	地域と都市の防災('16)	社会と産業		

⑬地域貢献リーダー人材育成プラン

認証状の名称		地域貢献リーダー人材			
<p>(認証の教育目標と社会的意義)</p> <p>わが国では、環境、教育、福祉など様々な領域に生じる問題について、住民がその解決に積極的に取り組む動きが広がっている。住民は地域知を持っていると同時に、取り組みにかかる当事者性が強く、地域社会の課題解決への貢献の可能性は大きい。本プランは、地域の課題解決に資する科目群と課題解決を実践する組織づくりの担い手の育成に資する科目群を配置し、それらの授業科目の履修を通して、地域社会の課題解決に向けて主体的に取り組むことのできるリーダーの育成を目指す。</p>					
<p>(認証取得後の目的・目指せる道・資格等)</p> <p>上記(認証の教育目標と社会的意義)をご参照ください。</p>					
<p>(認証取得条件)</p> <p>閉講科目を含む授業科目群62単位の中から、20単位以上を修得すること。 ※「備考」欄に㉒、㉓等の表記がある科目については、同じ記号の科目を複数修得していても、認証取得条件として認められるのは1科目分の単位数のみです。</p>					
授業科目群の構成					
	科目名	分野もしくはコース名	必修科目等	備考	
1	健康への力の探究('19)㉒	生活と福祉			
2	貧困の諸相('23)㉒	生活と福祉/心理と教育 社会と産業		㉒	
3	社会福祉―新しい地平を拓く('22)㉓	生活と福祉/心理と教育		㉓	
4	社会と産業の倫理('21)㉒	基盤科目			
5	市民自治の知識と実践('21)㉒	基盤科目			
6	問題解決の進め方('25)㉓ 問題解決の進め方('19)	基盤科目			
7	社会学概論('25)㉓ 社会学概論('21)	社会と産業/心理と教育		㉓	
8	社会調査の基礎('19)㉓ 社会調査の基礎('15)、社会調査('09) 社会調査('05)	社会と産業/生活と福祉 心理と教育			
9	高齢期を支える('23)㉒	生活と福祉/心理と教育		㉒	
10	リスク社会の家族変動('20)㉒	生活と福祉/社会と産業			
11	地域福祉の課題と展望('22)㉓	生活と福祉		㉓	
12	認知症と生きる('21)㉓	生活と福祉/心理と教育			
13	生涯学習を考える('17)㉑	心理と教育/人間と文化			
14	市民生活と裁判('22)㉓ 市民生活と裁判('18)	社会と産業			
15	NPO・NGOの世界('25)㉒ NPO・NGOの世界('21)	社会と産業/心理と教育		㉒	
16	人生100年時代の家族と法('23)㉓	社会と産業		㉓	
17	フードシステムと日本農業('22)㉒ フードシステムと日本農業('18)	社会と産業			
18	障害者の自立と制度('24)㉓	生活と福祉/心理と教育 社会と産業		㉓	
(閉講科目)					以下の科目の単位を修得済みの場合、科目の有効期限(開講年度から10年間)までは認証取得条件として認めます。 (6、7ページの「授業科目群の見方(全認証プラン共通)」参照)
	科目名	分野もしくはコース名	必修科目等	備考	
19	地域コミュニティと教育('18)	心理と教育/社会と産業			
20	環境問題のとりえ方と解決方法('17)	社会と産業/自然と環境			
21	人間にとって貧困とは何か('19)	生活と福祉/社会と産業		㉒	
22	社会福祉への招待('16)	生活と福祉		㉓	
23	社会学入門('16)	社会と産業		㉓	
24	高齢期の生活変動と社会的方策('19)	生活と福祉		㉒	
25	人口減少社会の構想('17)	生活と福祉			
26	地域福祉の現状と課題('18)	生活と福祉/社会と産業		㉓	
27	移動と定住の社会学('16)	社会と産業			
28	NPOマネジメント('17) NPOマネジメント('11)、NPOマネジメント('07)	社会と産業		㉒	
29	家族と高齢社会の法('17)	社会と産業/生活と福祉		㉓	
30	障害を知り共生社会を生きる('17)	生活と福祉/心理と教育		㉓	
31	学校と社会を考える('17)	心理と教育			

⑭日本文化を伝える国際ボランティア・ガイド(基礎力)養成プラン

認証状の名称	日本文化を伝える国際ボランティア・ガイド(基礎力)養成
<p>(認証の教育目標と社会的意義)</p> <p>日本の歴史・文化等の知識を身につけ、外国人に伝える能力を身につけることを目的とする。外国人が関心をもつ武道や芸道を入口として、その背景にある日本文化、特に日本語、地理、日本史、和歌、宗教などを中心に、幅広く学ぶ。また、外国語による日本文化の表現や、異文化理解、国際理解も学ぶ。</p> <p>本プランは、都道府県主催の語学講座を修了した方など、初級から中級レベルの語学力をもつ者を対象とする。</p>	
<p>(認証取得後の目的・目指せる道・資格等)</p> <p>1. さらに外国語や日本文化を学び、語学力を磨く。学んだことをもとに、自ら外国人に声をかけて、さらに語学の実践力を身につける。</p> <p>2. 「全国通訳案内士」の資格取得を目指す。</p> <p>本プランの認証取得後、次のステップとして「全国通訳案内士」を目指すことについて、全国通訳案内士の団体より推薦をいただいております。</p> <p>【推薦いただいている団体】</p> <p>「一般社団法人日本観光通訳協会」、 「協同組合全日本通訳案内士連盟」、 「NPO法人 GICSS 研究会(通訳ガイド&コミュニケーション・スキル研究会)」</p>	
<p>(認証取得条件)</p> <p>閉講科目を含む授業科目群 43 単位の中から、必修科目 2 単位、選択必修科目 3 単位以上を含めて、合計 15 単位以上を修得すること。</p> <p>※本プランの認証取得条件は、2020 年度より単位数型となりました。</p> <p>◎：必修科目、○：選択必修科目、無印：選択科目</p> <p>※「備考」欄に㉠、㉡等の表記がある科目については、同じ記号の科目を複数修得していても、認証取得条件として認められるのは 1 科目分の単位数のみです。</p>	

授業科目群の構成

科目 No.	科目名	分野もしくはコース名	必修科目等	備考
1	英語で「道」を語る('21) ㉠	外国語科目	◎	
2	文学・芸術・武道にみる日本文化('19) ㉠	人間と文化	○	㉠ [注1]
3	任意の外国語科目【2 単位】【面接授業も可】 ㉠、㉡、㉢、㉣	外国語科目	○	[注2]
4	国際理解のために('19) ㉡	基盤科目		
5	多文化共生のコミュニケーション('24) ㉡	人間と文化/心理と教育		㉡
6	日本近現代史('21) ㉡	人間と文化/社会と産業		
7	人文地理学からみる世界('22) ㉠	人間と文化		㉠
8	社会と産業の倫理('21) ㉡	基盤科目		
9	古代中世の日本('23) ㉠	人間と文化		㉠
10	『方丈記』と『徒然草』('18) ㉠	人間と文化		
11	原典で読む日本の思想('24) ㉡	人間と文化/社会と産業		㉡
12	日本美術史の近代とその外部('18) ㉠	人間と文化		
13	世界の中の日本外交('21) ㉠	社会と産業		
14	情報社会と国際ボランティア活動('24) ㉠	情報/社会と産業		㉠

(閉講科目) 以下の科目の単位を修得済みの場合、科目の有効期限(開講年度から 10 年間)までは認証取得条件として認めます。
(6、7 ページの「授業科目群の見方(全認証プラン共通)」参照)

科目 No.	科目名	分野もしくはコース名	必修科目等	備考
15	科目 No.2 に対応した面接授業【1 単位】	人間と文化	○	㉠ [注1] [注3]
16	日本文学における古典と近代('18)	人間と文化		
17	コミュニケーション学入門('19)	人間と文化/心理と教育		㉡
18	現代人文地理学('18)	人間と文化		㉠
19	日本の古代中世('17)	人間と文化		㉠
20	日本仏教を捉え直す('18)	人間と文化		㉡
21	生活における地理空間情報の活用('16)	生活と福祉		
22	情報化社会と国際ボランティア('19)	情報/心理と教育		㉡

[注 1] 記号㉠(科目 No.2、科目 No.15)の科目を複数修得していても、認証取得条件として認められるのは、新しく修得した 1 科目のみです(記号㉠の認定単位は 1 単位)。
[注 2] 科目 No.3「任意の外国語科目」については、同一もしくは異なる外国語を合計 2 単位修得すること。放送授業、オンライン授業、面接授業、いずれも可。なお、外国語科目であれば、科目の開講年度に関わらず過去に修得した単位も認めます。外国語科目を 2 単位以上修得しても、認証取得条件として認められるのは 2 単位のみです。また、他大学等で修得した単位は認められませんので、本学の外国語科目を履修してください。
[注 3] 科目 No.15「科目 No.2 に対応した面接授業」は、以下のとおりです。

2016 年度第 1 学期	『日本の芸道と武道の思想』
2017 年度第 1 学期・第 2 学期	『日本の芸道と武道の思想』
2018 年度第 1 学期	『日本の芸道と武道の思想』
2018 年度第 2 学期	『日本文化概論』
2019 年度第 1 学期	『日本文化概論』
2019 年度第 2 学期	『日本文化概論 1』、『日本文化概論 2』
2020 年度第 1 学期	『日本文化概論』
2020 年度第 2 学期	『日本文化論 1—日本仏教を考える』
2021 年度第 1 学期	『日本文化概論』
2021 年度第 2 学期	『日本文化概論—鹿児島を視点に』、『日本文化概論—和歌山を視点に』、『日本文化論 2—日本仏教再考』

詳しくは、放送大学のウェブサイトでご覧いただけます。

選ばれる理由 > 資格取得とキャリアアップ > 科目群履修認証制度「放送大学エキスパート」 > 実施要領 > 『日本文化を伝える国際ボランティア・ガイド(基礎力)養成プラン』選択必修科目に対応する面接授業について

⑮学校地域連携コーディネータープラン

認証状の名称	学校地域連携コーディネーター
--------	----------------

(認証の教育目標と社会的意義)

学校支援活動、放課後の教育活動、地域文化活動など、学校と地域との連携・協働を推進するために必要とされる基礎的知識(学校や地域に関する知識、ボランティア・マネジメントに関する知識、子どもに関する臨床的知識など)を広く体系的に習得させる。

国がすすめるコミュニティ・スクールや地域学校協働本部などの施策において、学校支援等の地域活動の連絡・調整やボランティアの確保など、学校と地域が連携する際に中心的役割を担い、要(かなめ)となるコーディネーターを養成する。

※「学校地域連携コーディネーター」は、放送大学独自の呼称です。

(認証取得後の目的・目指せる道・資格等)

今後公立小中学校に置かれることが期待されている「地域コーディネーター」、学校側の窓口として地域連携の企画・調整等を行うことが想定されている「地域連携担当の教職員」、社会教育主事、学芸員、司書などの生涯学習に関わる職員、また、学校を含む地域活動を実践するNPOの者、NPO中間支援組織の職員などによる認証取得が望まれる。

(認証取得条件)

閉講科目を含む授業科目群54単位の中から、必修科目6単位、選択必修科目2単位以上を含めて、合計14単位以上を修得すること。

※本プランの認証取得条件は、2020年度より単位数型となりました。

◎：必修科目、○：選択必修科目、無印：選択科目

※「備考」欄に㉠、㉡等の表記がある科目については、同じ記号の科目を複数修得していても、認証取得条件として認められるのは1科目分の単位数のみです。

授業科目群の構成

科目番号	科目名	分野もしくはコース名	必修科目等	備考
1	現代教育入門('21)㉠	心理と教育	◎	
2	コミュニティと教育('24)㉠	心理と教育/社会と産業	◎	㉠
3	生涯学習を考える('17)㉠	心理と教育/人間と文化	◎	
4	教育の社会学('25)㉠	心理と教育/社会と産業	○	㉡
5	教育の行政・政治・経営('23)㉠ 教育の行政・政治・経営('19)	心理と教育	○	
6	社会教育経営実践論('22)㉠ ※2023年度から追加	心理と教育	○	㉢
7	生涯学習支援の理論と実践('22)㉠ ※2023年度から追加	心理と教育	○	㉢
8	心理と教育へのいざない('24)㉠	基盤科目		㉣
9	学校と法('24)㉠	心理と教育/社会と産業		㉤
10	市民自治の知識と実践('21)㉠	基盤科目		
11	社会調査の基礎('19)㉠ 社会調査の基礎('15) 社会調査('09)、社会調査('05)	社会と産業/生活と福祉 心理と教育		
12	情報社会と国際ボランティア活動('24)㉠	情報/社会と産業		㉥
13	問題解決の進め方('25)㉠ 問題解決の進め方('19)	基盤科目		
14	NPO・NGOの世界('25)㉠ NPO・NGOの世界('21)	社会と産業/心理と教育		㉦
15	博物館教育論('22)㉠	人間と文化/心理と教育		㉧
16	日本の文化と教育('23)㉠	心理と教育/人間と文化		㉨
17	心理カウンセリング序説('21)㉠	心理と教育		
18	思春期・青年期の心理臨床('19)㉠	心理と教育		
19	現代のキャリアコンサルティング('25)㉠ 【1単位】	心理と教育/社会と産業		㉩

(閉講科目) 以下の科目の単位を修得済みの場合、科目の有効期限(閉講年度から10年間)までは認証取得条件として認めます。
(6、7ページの「授業科目群の見方(全認証プラン共通)」参照)

科目番号	科目名	分野もしくはコース名	必修科目等	備考
20	地域コミュニティと教育('18)	心理と教育/社会と産業	◎	㉠
21	教育社会学概論('19)	心理と教育/社会と産業	○	㉡
22	心理と教育へのいざない('18)	心理と教育		㉣
23	学校と法('20) 学校と法('16)	心理と教育		㉤
24	情報化社会と国際ボランティア('19)	情報/心理と教育		㉥
25	NPOマネジメント('17) NPOマネジメント('11)、NPOマネジメント('07)	社会と産業		㉦
26	博物館教育論('16)	人間と文化		㉧
27	子ども・青年の文化と教育('17)	心理と教育		㉨
28	キャリアコンサルティング概説('20) 【1単位】	心理と教育		㉩

【注】科目No.6「社会教育経営実践論('22)」と科目No.7「生涯学習支援の理論と実践('22)」は2023年度より選択必修科目に追加となりましたが、2022年度にこの科目の単位を修得した場合も修得単位として認定します。

⑩ データサイエンスリテラシープラン

認証状の名称	データサイエンス・リテラシー
(認証の教育目標と社会的意義) 数理・データサイエンス・AIは、現在進行中の社会変化に深く寄与しているものであること、また、それらが自らの生活と密接に結びついていることを理解し、それを理解するための基礎的な知識を身につけること。	
(認証取得後の目的・目指せる道・資格等) ① データを収集・分析し、数理的思考に基づいて社会の様々な課題を解決するためにデータサイエンスが活用されていることを理解する。 ② データサイエンティスト、アクチュアリー、データアナリストになるための基礎的な知識を身につける。基礎的な知識とは、データ・AIの活用領域、留意事項、およびデータを読み、説明し取り扱うための知識を指す。	
(認証取得条件) 閉講科目を含む授業科目群 85 単位の中から、選択必修科目 4 単位以上(ただし、同一添え字のある科目の中から1科目以上履修すること)を含めて8単位以上を修得すること。 ○：選択必修科目(Oa、Obなど同一添え字の中から1科目以上履修すること)、無印：選択科目 ※「備考」欄に(A)、(B)等の表記がある科目については、同じ記号の科目を複数修得していても、認証取得条件として認められるのは1科目分の単位数のみです。	

授業科目群の構成

科目名	分野もしくはコース名	必修科目等	備考
1 データサイエンス・リテラシー導入(22) ○ 【1単位】 ※2023年度から追加	基盤科目	Oa	[注1]
2 情報技術が拓く人間理解(20) □	情報/心理と教育 自然と環境	Oa	
3 AIシステムと人・社会との関係(20) □	情報	Oa	
4 情報学へのとびら(22) □ 情報学へのとびら(16)	基盤科目	Ob	
5 データサイエンス・リテラシー心得(22) ○ 【1単位】 ※2023年度から追加	基盤科目	Ob	[注1]
6 情報セキュリティ概論(22) □ 情報セキュリティと情報倫理(18) 情報のセキュリティと倫理(14)	情報	Ob	
7 身近な統計(24) □ 身近な統計(18)、身近な統計(12) 身近な統計(07)	基盤科目	Oc	
8 データサイエンス・リテラシー基礎(22) ○ 【1単位】 ※2023年度から追加	基盤科目	Oc	[注1]
9 統計学(19) □ 統計学(13)、統計学(09)	自然と環境 心理と教育/情報	Oc	
10 心理学統計法(21) □	心理と教育/情報	Oc	(A)
11 社会統計学入門(24) □ 社会統計学入門(18) 社会統計学入門(12)	社会と産業/生活と福祉 心理と教育/情報	Oc	
12 初歩からの情報科学(25) □ 計算の科学と手引き(19)	情報/生活と福祉 情報/自然と環境	Od	
13 プログラミング入門Python(24) ○ 【1単位】	情報/自然と環境	Od	(B)
14 C言語基礎演習(20) ○ 【1単位】	情報	Od	
15 Rで学ぶ確率統計(21) ○ 【1単位】	心理と教育/情報	Od	
16 表計算プログラミングの基礎(21) ○ 【1単位】	情報	Od	
17 データ構造の基礎(24) □ データ構造とプログラミング(18) データ構造とプログラミング(13)	情報/自然と環境	Od	
18 アルゴリズムとプログラミング(20) □ アルゴリズムとプログラミング(16)	情報	Od	
19 問題解決の進め方(25) □ 問題解決の進め方(19)	基盤科目		
20 日常生活のデジタルメディア(22) □ 日常生活のデジタルメディア(18) 日常生活のデジタルメディア(14)	情報/心理と教育		
21 社会経済の基礎(25) □	社会と産業		(C)
22 情報理論とデジタル表現(19) □ デジタル情報と符号の理論(13)	情報		
23 初歩からの数学(18) □ 初歩からの数学(12)	基盤科目		
24 経営学入門(24) □	社会と産業/心理と教育		(D)
25 数値の処理と数値解析(22) □ 数値の処理と数値解析(14)	情報/自然と環境		
26 データの分析と知識発見(24) □ データの分析と知識発見(20) データの分析と知識発見(16) データからの知識発見(12)	情報/心理と教育 社会と産業/自然と環境		
27 データベース(23) □ データベース(17)	情報/自然と環境		
28 マーケティング(25) □	社会と産業/心理と教育		(E)
29 ユーザ調査法(20) □ ユーザ調査法(16) 情報機器利用者の調査法(12)	情報/心理と教育		
30 サプライチェーン・マネジメント(25) ○	社会と産業/情報		(F)
31 経営情報学入門(23) □	社会と産業/情報		(G)
32 入門線型代数(19) □ 入門線型代数(14)、入門線型代数(09) 線型代数入門(03)	自然と環境		
33 社会調査の基礎(19) □ 社会調査の基礎(15)、社会調査(09) 社会調査(05)	社会と産業/生活と福祉 心理と教育		
34 自然言語処理(23) □ 自然言語処理(19)、自然言語処理(15)	情報		
35 問題解決の数理(21) □ 問題解決の数理(17)	情報		
36 解析入門(24) □ 解析入門(18)、解析入門(14)	情報/自然と環境		
37 情報ネットワーク(18) ○ 情報ネットワーク(14)	情報		
38 本プラン指定科目 【1単位】	—		[注2]

(閉講科目) 以下の科目の単位を修得済みの場合、科目の有効期限(開講年度から10年間)までは認証取得条件として認めます。
(6、7ページの「授業科目群の見方(全認証プラン共通)」参照)

科目名	分野もしくはコース名	必修科目等	備考
39 心理統計法(17)	心理と教育/人間と文化	Oc	(A)
40 Javaプログラミングの基礎(16) 【1単位】	情報	Od	(B)
41 経済社会を考える(19)	社会と産業		(C)
42 経営学概論(18)	社会と産業		(D)
43 ソーシャルシティ(17)	生活と福祉		
44 マーケティング(21)	情報/社会と産業 心理と教育		(E)
45 マーケティング論(17)	社会と産業		(E)
46 サプライチェーン・マネジメント(21)	社会と産業		(F)
47 経営情報学入門(19)	社会と産業/情報		(G)

[注1] 科目No.1「データサイエンス・リテラシー導入(22)」と科目No.5「データサイエンス・リテラシー心得(22)」、科目No.8「データサイエンス・リテラシー基礎(22)」は2023年度より選択必修科目に追加となりましたが、2022年度にこの科目の単位を修得した場合も修得単位として認定します。
 [注2] 面接授業やライブWeb授業を授業科目群に加える予定です。対象となる科目名等、詳細は本学ウェブサイトでご公表します。

本プランは、文部科学大臣が認定及び選定する「数理・データサイエンス・AI教育プログラム(リテラシーレベル)」として認定されています

⑰ データサイエンスアドバンスプラン

認証状の名称	データサイエンス応用基礎
<p>(認証の教育目標と社会的意義)</p> <p>情報通信社会の到来によって大量のデータが日々生産・交換され、互いの関係は非常に複雑になっている。そうしたデータの中に潜む有益な情報を見つけ出し、ビジネスに活かして新しい価値やサービスを創出したり、生活に取り入れて健康で豊かに生きることを支援したりする試みが始まっている。本プランはデータサイエンスの基本要素となる科目を学ぶことにより、数理的思考とデータ分析に基づいて様々な問題を解決できる人材を育成する。</p>	
<p>(認証取得後の目的・目指せる道・資格等)</p> <p>① データを収集・分析し、数理的思考に基づいて社会の様々な課題を解決するためにデータサイエンスを適用できること。 ② データサイエンティスト、アクチュアリー、データアナリストとして、様々な専門領域で活躍するときに役立つ知識を理解すること。</p>	
<p>(認証取得条件)</p> <p>閉講科目を含む授業科目群 48 単位の中から、必修科目 6 単位、選択必修科目 5 単位以上(ただし、同一添え字のある科目の中から 1 科目以上選択すること)を含めて 11 単位以上を修得すること。 ◎：必修科目、○：選択必修科目(○a、○b など同一添え字の中から 1 科目以上履修すること)、無印：選択科目 ※「備考」欄に①、②等の表記がある科目については、同じ記号の科目を複数修得していても、認証取得条件として認められるのは 1 科目分の単位数のみです。</p>	

授業科目群の構成

科目名	分野もしくはコース名	必修科目等	備考
1 データ構造の基礎('24) ㊦	情報 / 自然と環境	◎	
データ構造とプログラミング('18) データ構造とプログラミング('13)			
2 情報セキュリティ概論('22) ㊦	情報	◎	
情報セキュリティと情報倫理('18) 情報のセキュリティと倫理('14)			
3 AIシステムと人・社会との関係('20) ㊦	情報	◎	
4 統計学('19) ㊦	自然と環境 / 心理と教育 情報	○a	
統計学('13)、統計学('09)			
5 心理学統計法('21) ㊦	心理と教育 / 情報	○a	①
6 社会統計学入門('24) ㊦	社会と産業 / 生活と福祉 心理と教育 / 情報	○a	
社会統計学入門('18) 社会統計学入門('12)			
7 データベース('23) ㊦	情報 / 自然と環境	○b	
8 マーケティング('25) ㊦	社会と産業 / 心理と教育	○b	②
9 ユーザ調査法('20) ㊦	情報 / 心理と教育	○b	
ユーザ調査法('16) 情報機器利用者の調査法('12)			
10 サプライチェーン・マネジメント('25) ㊦	社会と産業 / 情報	○b	③
11 自然言語処理('23) ㊦	情報	○b	
自然言語処理('19)、自然言語処理('15)			
12 アルゴリズムとプログラミング('20) ㊦	情報	○b	
アルゴリズムとプログラミング('16)			
13 データの分析と知識発見('24) ㊦	情報 / 心理と教育 社会と産業 / 自然と環境	○c	[注 1]
データの分析と知識発見('20) データの分析と知識発見('16) データからの知識発見('12)			
14 続・〇言語基礎演習('23) ㊦ 【1 単位】			
15 数値の処理と数値解析('22) ㊦	情報 / 自然と環境		
数値の処理と数値解析('14)			

科目名	分野もしくはコース名	必修科目等	備考
16 経営情報学入門('23) ㊦	社会と産業 / 情報		④
17 問題解決の数理('21) ㊦	情報		
問題解決の数理('17)			
18 解析入門('24) ㊦	情報 / 自然と環境		
解析入門('18)、解析入門('14)			
19 情報ネットワーク('18) ㊦	情報		
情報ネットワーク('14)			
20 本プラン指定科目【1 単位】	—		[注 2]

(閉講科目) 以下の科目の単位を修得済みの場合、科目の有効期限(閉講年度から 10 年間)までは認証取得条件として認めます。
(6、7 ページの「授業科目群の見方(全認証プラン共通)」参照)

科目名	分野もしくはコース名	必修科目等	備考
21 心理統計法('17)	心理と教育 / 人間と文化	○a	①
22 マーケティング('21)	情報 / 社会と産業 心理と教育	○b	②
23 マーケティング論('17)	社会と産業	○b	③
24 サプライチェーン・マネジメント('21)	社会と産業	○b	④
25 経営情報学入門('19)	社会と産業 / 情報		⑤

[注 1] 科目 No.13「データの分析と知識発見('20)」は 2022 年度まで必修科目としていましたが、2023 年度より必修科目の指定を解除し、新設した選択必修科目 ○c の指定とします。
 科目 No.13「データの分析と知識発見('20)」を 2022 年度までに修得している場合でも、2023 年度以降は選択必修科目(○c)の単位として認められ、2023 年度より必修科目の単位数が 8 単位から 6 単位に変更になりましたので、不利益になることはありません。
 [注 2] 面接授業やライブ Web 授業を授業科目群に加える予定です。対象となる科目名等、詳細は本学ウェブサイトでご覧いただけます。

本プランは、文部科学大臣が認定及び選定する「数理・データサイエンス・AI教育プログラム(応用基礎レベル)」として認定されています

⑱ 社会探究プラン

認証状の名称	現代社会の探究
<p>(認証の教育目標と社会的意義)</p> <p>本プランでは、現代の社会・経済の構造を理解し、独立した市民として社会に向き合う視点を確立するために、社会学及び経済学の基礎から高度な政策課題の分析までを学習する。</p>	
<p>(認証取得後の目的・目指せる道・資格等)</p> <p>①科目履修生と選科履修生は、当科目群認証を履修し、社会科学学習の基礎を養い、社会科学の導入を図る。②全科履修生については、卒業研究を履修し、認証取得で得た知識を基にして論文作成を目指す。③大学院(社会経営科学プログラム)へ進学し、社会人研究者への道を目指す。</p>	
<p>(認証取得条件)</p> <p>閉講科目を含む授業科目群48単位の中から、選択必修科目8単位以上を含めて、20単位以上を修得すること。 ○：選択必修科目、無印：選択科目 ※「備考」欄に(A)、(B)等の表記がある科目については、同じ記号の科目を複数修得していても、認証取得条件として認められるのは1科目分の単位数のみです。</p>	

授業科目群の構成

科目名	分野もしくはコース名	必修科目等	備考
1 社会調査の基礎('19) [T] ----- 社会調査の基礎('15)、社会調査('09) 社会調査('05)	社会と産業/生活と福祉 心理と教育	○	
2 災害社会学('20) [T]	社会と産業	○	
3 現代経済学('19) [T]	社会と産業	○	
4 金融と社会('20) [T]	社会と産業		
5 財政と現代の経済社会('19) [T] ----- 財政と現代の経済社会('15)	社会と産業		
6 情報技術が拓く人間理解('20) [T]	情報/心理と教育 自然と環境		(A)

(閉講科目) 以下の科目の単位を修得済みの場合、認証取得条件として認めます。
(6、7ページの「授業科目群の見方(全認証プラン共通)」参照)

科目名	分野もしくはコース名	必修科目等	備考
7 都市と地域の社会学('18)	社会と産業/心理と教育 人間と文化	○	
8 市民自治の知識と実践('15)	基盤科目	○	
9 グローバル化と私たちの社会('15)	社会と産業	○	
10 社会学入門('16)	社会と産業	○	
11 移動と定住の社会学('16)	社会と産業	○	
12 経済社会を考える('19)	社会と産業	○	
13 社会統計学入門('18) ----- 社会統計学入門('12)	社会と産業/生活と福祉 心理と教育/情報 自然と環境		
14 開発経済学：アジアの農村から('20)	社会と産業/人間と文化		
15 進化する情報社会('15) ----- 進化する情報社会('11)	総合科目		(A)
16 新時代の組織経営と働き方('20)	社会と産業		(B)
17 グローバル経済史('18)	社会と産業/人間と文化		
18 都市と農山村からみる身近な経済('18)	社会と産業/人間と文化		
19 ソーシャルシティ('17)	生活と福祉/心理と教育		
20 音を追究する('16)	生活と福祉/心理と教育 人間と文化/社会と産業 自然と環境		
21 色と形を探究する('17)	心理と教育/社会と産業 人間と文化/情報 自然と環境		
22 世界の中の日本('15)	総合科目		
23 多様なキャリアを考える('15)	総合科目		(B)
24 環境と社会('15) ----- 環境と社会('09)	総合科目		

※本プランは2021年3月31日をもって廃止されましたが、経過措置として2026年3月31日まで申請が可能です。

ただし、2021年度以降は新規科目の追加は行いませんので、科目の開講等に十分注意してください。なお、放送授業科目の開設期間はおおむね4年間です(開設期間は事情により変更することがあります)。

※本プランの認証取得条件は、開設中の科目の単位だけでは満たせません。そのため、閉講科目のうちから、不足する単位を既に修得している場合のみ、本プランの認証取得を目指すことができます。

⑱ 次世代育成支援プラン

認証状の名称	次世代育成支援																																																																								
<p>(認証の教育目標と社会的意義)</p> <p>少子高齢社会における青少年・若者の育成は、社会的に重要な課題となっている。2003年には次世代育成法が制定され、青少年から若者まで、成長・発達のための社会環境整備の取り組みが進んでいる。さらに、2010年度には、子ども若者育成支援推進法が施行され、社会生活を円滑に営む上で困難を有する子ども・若者を支援するためのネットワーク整備が展開している。本プランは、青少年・若者に関する教育機関その他の専門機関や民間団体、そして親や一般市民など、次世代育成に関心をもち、課題に取り組む人材の養成を目的とする。</p>																																																																									
<p>(認証取得後の目的・目指せる道・資格等)</p> <p>①全科履修生については、卒業研究を履修し、認証取得で得た知識を基にして論文作成を目指す。②大学院に進学し、次世代育成に関連するテーマで研究し、専門性の高い職業人や専門的知識をもった社会活動の担い手を目指す。③社会福祉士・民生・児童委員・学童保育指導員・子どもの健全育成推進員・NPO職員等の仕事に必要な知識を深める。</p>																																																																									
<p>(認証取得条件)</p> <p>閉講科目を含む授業科目群38単位の中から、20単位以上を修得すること。 ※「備考」欄に(A)、(B)等の表記がある科目については、同じ記号の科目を複数修得していても、認証取得条件として認められるのは1科目分の単位数のみです。</p>																																																																									
<p>授業科目群の構成</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>科目名</th> <th>分野もしくはコース名</th> <th>必修科目等</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1 リスク社会の家族変動('20) ㊲</td> <td>生活と福祉/社会と産業</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2 家族問題と家族支援('20) ㊲</td> <td>生活と福祉/心理と教育</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3 乳幼児・児童の心理臨床('17) ㊴</td> <td>心理と教育</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4 思春期・青年期の心理臨床('19) ㊲</td> <td>心理と教育</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		科目名	分野もしくはコース名	必修科目等	備考	1 リスク社会の家族変動('20) ㊲	生活と福祉/社会と産業			2 家族問題と家族支援('20) ㊲	生活と福祉/心理と教育			3 乳幼児・児童の心理臨床('17) ㊴	心理と教育			4 思春期・青年期の心理臨床('19) ㊲	心理と教育																																																						
科目名	分野もしくはコース名	必修科目等	備考																																																																						
1 リスク社会の家族変動('20) ㊲	生活と福祉/社会と産業																																																																								
2 家族問題と家族支援('20) ㊲	生活と福祉/心理と教育																																																																								
3 乳幼児・児童の心理臨床('17) ㊴	心理と教育																																																																								
4 思春期・青年期の心理臨床('19) ㊲	心理と教育																																																																								
<p>(閉講科目) 以下の科目の単位を修得済みの場合、認証取得条件として認めます。(6、7ページの「授業科目群の見方(全認証プラン共通)」参照)</p> <table border="1"> <tbody> <tr> <td>5 地域コミュニティと教育('18)</td> <td>心理と教育/社会と産業</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>6 社会福祉と法('20)</td> <td>生活と福祉/社会と産業</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>社会福祉と法('16)</td> <td>生活と福祉/社会と産業</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>7 人間にとって貧困とは何か('19)</td> <td>生活と福祉/社会と産業</td> <td>(A)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8 貧困と社会('15)</td> <td>生活と福祉</td> <td>(A)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9 少子社会の子ども家庭福祉('15)</td> <td>生活と福祉</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>10 人口減少社会の構想('17)</td> <td>生活と福祉</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>11 社会保障の国際動向と日本の課題('19)</td> <td>生活と福祉</td> <td>(B)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>12 社会福祉の国際比較('15)</td> <td>生活と福祉</td> <td>(B)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>13 生活における地理空間情報の活用('16)</td> <td>生活と福祉</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>14 移動と定住の社会学('16)</td> <td>社会と産業</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>15 心理カウンセリング序説('15)</td> <td>心理と教育</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>心理カウンセリング序説('09)</td> <td>心理と教育</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>16 地域福祉の現状と課題('18)</td> <td>生活と福祉/社会と産業</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>17 社会福祉実践の理論と実際('18)</td> <td>生活と福祉/社会と産業</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>18 生活経済学('20)</td> <td>生活と福祉/社会と産業</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>生活経済学('16)</td> <td>生活と福祉/社会と産業</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>19 学校と社会を考える('17)</td> <td>心理と教育</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		5 地域コミュニティと教育('18)	心理と教育/社会と産業			6 社会福祉と法('20)	生活と福祉/社会と産業			社会福祉と法('16)	生活と福祉/社会と産業			7 人間にとって貧困とは何か('19)	生活と福祉/社会と産業	(A)		8 貧困と社会('15)	生活と福祉	(A)		9 少子社会の子ども家庭福祉('15)	生活と福祉			10 人口減少社会の構想('17)	生活と福祉			11 社会保障の国際動向と日本の課題('19)	生活と福祉	(B)		12 社会福祉の国際比較('15)	生活と福祉	(B)		13 生活における地理空間情報の活用('16)	生活と福祉			14 移動と定住の社会学('16)	社会と産業			15 心理カウンセリング序説('15)	心理と教育			心理カウンセリング序説('09)	心理と教育			16 地域福祉の現状と課題('18)	生活と福祉/社会と産業			17 社会福祉実践の理論と実際('18)	生活と福祉/社会と産業			18 生活経済学('20)	生活と福祉/社会と産業			生活経済学('16)	生活と福祉/社会と産業			19 学校と社会を考える('17)	心理と教育		
5 地域コミュニティと教育('18)	心理と教育/社会と産業																																																																								
6 社会福祉と法('20)	生活と福祉/社会と産業																																																																								
社会福祉と法('16)	生活と福祉/社会と産業																																																																								
7 人間にとって貧困とは何か('19)	生活と福祉/社会と産業	(A)																																																																							
8 貧困と社会('15)	生活と福祉	(A)																																																																							
9 少子社会の子ども家庭福祉('15)	生活と福祉																																																																								
10 人口減少社会の構想('17)	生活と福祉																																																																								
11 社会保障の国際動向と日本の課題('19)	生活と福祉	(B)																																																																							
12 社会福祉の国際比較('15)	生活と福祉	(B)																																																																							
13 生活における地理空間情報の活用('16)	生活と福祉																																																																								
14 移動と定住の社会学('16)	社会と産業																																																																								
15 心理カウンセリング序説('15)	心理と教育																																																																								
心理カウンセリング序説('09)	心理と教育																																																																								
16 地域福祉の現状と課題('18)	生活と福祉/社会と産業																																																																								
17 社会福祉実践の理論と実際('18)	生活と福祉/社会と産業																																																																								
18 生活経済学('20)	生活と福祉/社会と産業																																																																								
生活経済学('16)	生活と福祉/社会と産業																																																																								
19 学校と社会を考える('17)	心理と教育																																																																								
<p>※本プランは2021年3月31日をもって廃止されましたが、経過措置として2026年3月31日まで申請が可能です。 ただし、2021年度以降は新規科目の追加は行いませんので、科目の開講等に十分注意してください。なお、放送授業科目の開設期間はおおむね4年間です(開設期間は事情により変更することがあります)。</p> <p>※本プランの認証取得条件は、開設中の科目の単位だけでは満たせません。そのため、閉講科目のうちから、不足する単位を既に修得している場合のみ、本プランの認証取得を目指すことができます。</p>																																																																									

⑳ 生命科学プラン

認証状の名称	生命人間科学																																																																				
<p>(認証の教育目標と社会的意義)</p> <p>現代生活では、最先端の生命科学を利用した技術が発達してきており、その結果、医療、農業、生物工業などの分野で飛躍的な発展が遂げられつつある。一方、それらの発展とともに、様々な倫理的問題も生まれてきており、そのような現代生活の中で、我々は科学的に自分自身の判断を行っていく必要がある。本プランでは、基本的な生命科学の知識、さらには生命科学の応用分野の進展に関する理解を深めることを目標とする。</p> <p>なお、「生命人間科学」とは、「生命科学」と「人間科学」を融合させたものであり、「生命科学」と「人間と科学のかかわり」を探究することにより、相互の分野の理解を深める内容となっている。</p>																																																																					
<p>(認証取得後の目的・目指せる道・資格等)</p> <p>「生命科学」と「人間と科学の関わり」について理解を深めることが目的である。 ①健康、食品、バイオテクノロジー、生物学などの広い意味での生命科学に興味がある方や、それらを仕事とする方が、認証取得を通して、これまでの知や体験を改めて見直し、知識を深め、新たな視点を得ることを目指す。②全科履修生については、卒業研究を履修し、認証取得で得た知識を基にして論文作成を目指す。③認証取得で得た知識を基礎として、大学院(自然環境科学プログラムなど)に進学して修士の取得を目指す。</p>																																																																					
<p>(認証取得条件)</p> <p>閉講科目を含む授業科目群25単位の中から、選択必修科目10単位以上を含めて、20単位以上を修得すること。 ○：選択必修科目、無印：選択科目 ※「備考」欄に(A)、(B)等の表記がある科目については、同じ記号の科目を複数修得していても、認証取得条件として認められるのは1科目分の単位数のみです。</p>																																																																					
<p>授業科目群の構成</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>科目名</th> <th>分野もしくはコース名</th> <th>必修科目等</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1 生命分子と細胞の科学('19) ㊴</td> <td>自然と環境</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>生命分子と細胞の科学('13)</td> <td>自然と環境</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2 生物の進化と多様化の科学('17) ㊴</td> <td>自然と環境/生活と福祉</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3 循環器の健康科学('20) ㊲ 【1単位】</td> <td>生活と福祉</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		科目名	分野もしくはコース名	必修科目等	備考	1 生命分子と細胞の科学('19) ㊴	自然と環境	○		生命分子と細胞の科学('13)	自然と環境			2 生物の進化と多様化の科学('17) ㊴	自然と環境/生活と福祉			3 循環器の健康科学('20) ㊲ 【1単位】	生活と福祉																																																		
科目名	分野もしくはコース名	必修科目等	備考																																																																		
1 生命分子と細胞の科学('19) ㊴	自然と環境	○																																																																			
生命分子と細胞の科学('13)	自然と環境																																																																				
2 生物の進化と多様化の科学('17) ㊴	自然と環境/生活と福祉																																																																				
3 循環器の健康科学('20) ㊲ 【1単位】	生活と福祉																																																																				
<p>(閉講科目) 以下の科目の単位を修得済みの場合、認証取得条件として認めます。(6、7ページの「授業科目群の見方(全認証プラン共通)」参照)</p> <table border="1"> <tbody> <tr> <td>4 初歩からの生物学('18)</td> <td>自然と環境</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>初歩からの生物学('14)</td> <td>自然と環境</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5 感染症と生体防御('18)</td> <td>生活と福祉/自然と環境</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>感染症と生体防御('14)</td> <td>生活と福祉/自然と環境</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>6 食と健康('18)</td> <td>生活と福祉/自然と環境</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>食と健康('12)、食と健康('06)</td> <td>生活と福祉/自然と環境</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>食品の成分と機能('03)</td> <td>生活と福祉/自然と環境</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>7 人体の構造と機能('18)</td> <td>生活と福祉/自然と環境</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8 動物の科学('15)</td> <td>自然と環境</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>動物の科学('09)</td> <td>自然と環境</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>9 疾病の成立と回復促進('17)</td> <td>生活と福祉</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>10 植物の科学('15)</td> <td>自然と環境</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>植物の科学('09)</td> <td>自然と環境</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>11 暮らしに役立つバイオサイエンス('15)</td> <td>総合科目</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>12 比較認知科学('17) ※2018年度から追加</td> <td>心理と教育</td> <td></td> <td>[注]</td> </tr> <tr> <td>比較行動学('11)</td> <td>心理と教育</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>13 運動と健康('18)</td> <td>基礎科目</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		4 初歩からの生物学('18)	自然と環境	○		初歩からの生物学('14)	自然と環境			5 感染症と生体防御('18)	生活と福祉/自然と環境	○		感染症と生体防御('14)	生活と福祉/自然と環境			6 食と健康('18)	生活と福祉/自然と環境	○		食と健康('12)、食と健康('06)	生活と福祉/自然と環境			食品の成分と機能('03)	生活と福祉/自然と環境			7 人体の構造と機能('18)	生活と福祉/自然と環境	○		8 動物の科学('15)	自然と環境	○		動物の科学('09)	自然と環境			9 疾病の成立と回復促進('17)	生活と福祉			10 植物の科学('15)	自然と環境			植物の科学('09)	自然と環境			11 暮らしに役立つバイオサイエンス('15)	総合科目			12 比較認知科学('17) ※2018年度から追加	心理と教育		[注]	比較行動学('11)	心理と教育			13 運動と健康('18)	基礎科目		
4 初歩からの生物学('18)	自然と環境	○																																																																			
初歩からの生物学('14)	自然と環境																																																																				
5 感染症と生体防御('18)	生活と福祉/自然と環境	○																																																																			
感染症と生体防御('14)	生活と福祉/自然と環境																																																																				
6 食と健康('18)	生活と福祉/自然と環境	○																																																																			
食と健康('12)、食と健康('06)	生活と福祉/自然と環境																																																																				
食品の成分と機能('03)	生活と福祉/自然と環境																																																																				
7 人体の構造と機能('18)	生活と福祉/自然と環境	○																																																																			
8 動物の科学('15)	自然と環境	○																																																																			
動物の科学('09)	自然と環境																																																																				
9 疾病の成立と回復促進('17)	生活と福祉																																																																				
10 植物の科学('15)	自然と環境																																																																				
植物の科学('09)	自然と環境																																																																				
11 暮らしに役立つバイオサイエンス('15)	総合科目																																																																				
12 比較認知科学('17) ※2018年度から追加	心理と教育		[注]																																																																		
比較行動学('11)	心理と教育																																																																				
13 運動と健康('18)	基礎科目																																																																				
<p>[注] 科目No.12「比較認知科学('17)」は2018年度より選択科目に追加となりましたが、2017年度以前にこの科目または「比較行動学('11)」の単位を修得した場合も修得単位として認定します。</p> <p>※ 本プランは2021年3月31日をもって廃止されましたが、経過措置として2026年3月31日まで申請が可能です。 ただし、2021年度以降は新規科目の追加は行いませんので、科目の開講等に十分注意してください。なお、放送授業科目の開設期間はおおむね4年間です(開設期間は事情により変更することがあります)。</p> <p>※ 本プランの認証取得条件は、開設中の科目の単位だけでは満たせません。そのため、閉講科目のうちから、不足する単位を既に修得している場合のみ、本プランの認証取得を目指すことができます。</p>																																																																					

㉑ 社会数学プラン

認証状の名称	数学と社会
(認証の教育目標と社会的意義) 社会現象の理解や実践のために、数学の重要性はいよいよ増している。現代社会においては、あらゆる現象からデータが集められ分析されるが、正しい結論を導き、また導かれた結論の妥当性を判断することは容易ではない。本プランは、その基礎となる数学・統計科目及び社会系科目を学ぶことにより、その論理的理解の素養を身に付け、確かな数学力を持ち、社会科学を理解する人材を育成する。	
(認証取得後の目的・目指せる道・資格等) ①全科履修生については、卒業研究を履修し、認証取得で得た知識を基にして論文作成を目指す。②大学院に進学して研究を続け、将来、博士課程への進学や、研究者への道を目指す。③認証で得た知識や数理的思考を用い、複雑な社会を解明することに役立てる。	
(認証取得条件) 閉講科目を含む授業科目群38単位の中から、必修科目4単位、選択必修科目6単位以上を含めて、20単位以上を修得すること。 ◎：必修科目、○：選択必修科目、無印：選択科目 ※「備考」欄に(A)、(B)等の表記がある科目については、同じ記号の科目を複数修得していても、認証取得条件として認められるのは1科目分の単位数のみです。	

授業科目群の構成				
	科目名	分野もしくはコース名	必修科目等	備考
1	入門線型代数(19) [T] 入門線型代数(14)、入門線型代数(09) 線型代数入門(03)	自然と環境	◎	
2	初歩からの数学(18) [T] 初歩からの数学(12)	基盤科目	○	
3	社会調査の基礎(19) [T] 社会調査の基礎(15)、社会調査(09) 社会調査(05)	社会と産業/生活と福祉 心理と教育	○	
4	現代経済学(19) [T]	社会と産業	○	
5	コンピュータとソフトウェア(18) [T]	情報/自然と環境	○	
6	統計学(19) [B] 統計学(13)、統計学(09)	自然と環境/心理と教育 情報	○	
7	線型代数学(17) [B]	自然と環境		
8	情報技術が拓く人間理解(20) [T]	情報/心理と教育 自然と環境		(A)

(閉講科目) 以下の科目の単位を修得済みの場合、認証取得条件として認めます。(6、7ページの「授業科目群の見方(全認証プラン共通)」参照)

9	入門微分積分(16) 微分と積分(10)、初歩からの微積分(06) 初等微分積分学(02)、微積分入門I(98) 微分積分学I、微分積分学、基礎数学I	自然と環境	◎	
10	身近な統計(18) 身近な統計(12)、身近な統計(07)	基盤科目	○	
11	社会統計学入門(18) 社会統計学入門(12)	社会と産業/生活と福祉 心理と教育/情報 自然と環境	○	
12	自然科学はじめの一歩(15)	基盤科目	○	
13	経済社会を考える(19)	社会と産業	○	
14	解析入門(18) 解析入門(14)、解析入門(08)	自然と環境/情報		
15	心理統計法(17)	心理と教育/人間と文化		
16	非ユークリッド幾何と時空(15)	自然と環境		
17	微分方程式(17) 微分方程式への誘い(11)	自然と環境		
18	進化する情報社会(15) 進化する情報社会(11)	総合科目		(A)
19	数学の歴史(19) 数学の歴史(13)	自然と環境		

※本プランは2021年3月31日をもって廃止されましたが、経過措置として2026年3月31日まで申請が可能です。
ただし、2021年度以降は新規科目の追加は行いませんので、科目の開講等に十分注意してください。なお、放送授業科目の開設期間はおおむね4年間です(開設期間は事情により変更することがあります)。

※本プランの認証取得条件は、開設中の科目の単位だけでは満たせません。そのため、閉講科目のうちから、不足する単位を既に修得している場合のみ、本プランの認証取得を目指すことができます。

㉒ 食と健康アドバイザープラン

認証状の名称	食と健康アドバイザー
(認証の教育目標と社会的意義) 近年、食による健康の維持・増進、疾病の予防、食の安全性など食生活に関する知識と理解力を持つ人材が広く求められている。本プランは、食品産業、フードビジネス分野、福祉支援分野等において必要な「食と健康」に関わる基礎的、専門的知識を習得し、さらには伝承的食文化、食環境、文化的背景を理解することを目的とする。 ※「食と健康アドバイザー」は、放送大学独自の呼称です。	
(認証取得後の目的・目指せる道・資格等) ①全科履修生については、卒業研究を履修し、認証取得で得た知識を基にして論文作成を目指す。②大学院(生活健康科学プログラムなど)に進学して研究を続け、将来、博士課程への進学や教員、研究者への道を目指す。③認証取得で得た基礎力をもとに、栄養士・管理栄養士等を養成する大学・専門学校に進学し、資格取得を目指す。	

(認証取得条件) 閉講科目を含む授業科目群22単位の中から、必修科目6単位を含めて、20単位以上を修得すること。 ◎：必修科目、無印：選択科目 ※「備考」欄に(A)、(B)等の表記がある科目については、同じ記号の科目を複数修得していても、認証取得条件として認められるのは1科目分の単位数のみです。 ※2020年度より必修科目の単位数が、8単位から6単位になりました。	
---	--

授業科目群の構成				
	科目名	分野もしくはコース名	必修科目等	備考
1	健康への力の探究(19) [B]	生活と福祉		
2	暮らしに役立つバイオサイエンス(21) [T] 暮らしに役立つバイオサイエンス(15)	自然と環境		

(閉講科目) 以下の科目の単位を修得済みの場合、認証取得条件として認めます。(6、7ページの「授業科目群の見方(全認証プラン共通)」参照)

3	食と健康(18) 食と健康(12)、食と健康(06) 食品の成分と機能(03)	生活と福祉/自然と環境	◎	
4	公衆衛生(19) 公衆衛生(15)	生活と福祉	◎	
5	フードシステムと日本農業(18)	社会と産業	◎	
6	心理学概論(18)	心理と教育		
7	リスクコミュニケーションの現在(18) ※2020年度から追加	生活と福祉		[注]
8	人体の構造と機能(18)	生活と福祉/自然と環境		
9	人口減少社会の構想(17)	生活と福祉		
10	食の安全(21)	生活と福祉		
11	疾病の成立と回復促進(21) 疾病の成立と回復促進(17)	生活と福祉/心理と教育		

[注] 科目No.7「リスクコミュニケーションの現在(18)」は2020年度より選択科目に追加となりましたが、2019年度以前にこの科目の単位を修得した場合も修得単位として認定します。

※本プランは2022年3月31日をもって廃止されましたが、経過措置として2027年3月31日まで申請が可能です。
ただし、2022年度以降は新規科目の追加は行いませんので、科目の開講等に十分注意してください。なお、放送授業科目の開設期間はおおむね4年間です(開設期間は事情により変更することがあります)。

※本プランの認証取得条件は、開設中の科目の単位だけでは満たせません。そのため、閉講科目のうちから、不足する単位を既に修得している場合のみ、本プランの認証取得を目指すことができます。

⑳人にやさしいメディアデザインプラン

認証状の名称	人にやさしいメディアのデザイン
<p>(認証の教育目標と社会的意義)</p> <p>情報社会では様々なメディアが利用され、互いに融合し、新たな価値が生み出されている。こうしたメディアと人とを上手に結びつけるには、その設計や仕組みが人の行動や特性に基づいて人間の側から考えられていることが重要である。本プランは、メディアの扱い方と、その人間を中心にしたデザインに関する基礎知識を獲得し、有効に活用できるようになることを目指す。</p>	
<p>(認証取得後の目的・目指せる道・資格等)</p> <p>①全科目履修生については、卒業研究を履修し、認証取得で得た知識を基にして論文作成を目指す。②大学院(情報学プログラムなど)に進学し、研究を続け、将来、博士課程への進学や教員、研究者への道を目指す。</p>	
<p>(認証取得条件)</p> <p>閉講科目を含む授業科目群41単位の中から、必修科目4単位、選択必修科目8単位を含めて、20単位以上を修得すること。</p> <p>◎：必修科目、○：選択必修科目、無印：選択科目</p> <p>※「備考」欄に㉠、㉡等の表記がある科目については、同じ記号の科目を複数修得していても、認証取得条件として認められるのは1科目分の単位数のみです。</p>	

授業科目群の構成

	科目名	分野もしくはコース名	必修科目等	備考
1	ユーザ調査法('20)㉠	情報/心理と教育	◎	
	ユーザ調査法('16) 情報機器利用者の調査法('12)			
2	情報社会のユニバーサルデザイン('19)㉠	情報/心理と教育	◎	
	情報社会のユニバーサルデザイン('14)			
3	心理学統計法('21)㉠	心理と教育/情報	○	㉠
4	情報理論とデジタル表現('19)㉠	情報		
	デジタル情報と符号の理論('13)			
5	メディアと知的財産('16)㉡	情報		
6	情報技術が拓く人間理解('20)㉠	情報/心理と教育 自然と環境		

(閉講科目) 以下の科目の単位を修得済みの場合、認証取得条件として認めます。(6、7ページの「授業科目群の見方(全認証プラン共通)」参照)

	科目名	分野もしくはコース名	必修科目等	備考
7	社会統計学入門('18)	社会と産業/生活と福祉 心理と教育/情報 自然と環境	○	
	社会統計学入門('12)			
8	心理統計法('17)	心理と教育/人間と文化	○	㉠
9	日常生活のデジタルメディア('18)	情報	○	
	日常生活のデジタルメディア('14)			
10	CGと画像合成の基礎('16)	情報	○	
	映像メディアとCGの基礎('12)			
11	コンピュータと人間の接点('18)	情報	○	
	コンピュータと人間の接点('13)			
12	身近な統計('18)	基盤科目		
	身近な統計('12)、身近な統計('07)			
13	博物館概論('19)	人間と文化/心理と教育		
14	知覚・認知心理学('19)	心理と教育		
15	情報セキュリティと情報倫理('18)	情報		
	情報のセキュリティと倫理('14)			
16	教育のためのICT活用('17)	情報		
	メディアと学校教育('13)			
17	デジタル情報の処理と認識('18)	情報/自然と環境		
	デジタル情報の処理と認識('12)			
18	感性工学入門('16)【1単位】	情報		
19	色と形を探究する('17)	心理と教育/社会と産業 人間と文化/情報 自然と環境		
20	博物館展示論('16)	人間と文化		
21	映像コンテンツの制作技術('20)	情報		
	映像コンテンツの制作技術('16)			

※本プランは2022年3月31日をもって廃止されましたが、経過措置として2027年3月31日まで申請が可能です。

ただし、2022年度以降は新規科目の追加は行いませんので、科目の閉講等に十分注意してください。なお、放送授業科目の開設期間はおおむね4年間です(開設期間は事情により変更することがあります)。

※本プランの認証取得条件は、開設中の科目の単位だけでは満たせません。そのため、閉講科目のうちから、不足する単位を既に修得している場合のみ、本プランの認証取得を目指すことができます。

②4 データサイエンスプラン

認証状の名称		データサイエンス			
<p>(認証の教育目標と社会的意義)</p> <p>情報通信社会の到来によって大量のデータが日々生産・交換され、互いの関係は非常に複雑になっている。そうしたデータの中に潜む有益な情報を見つけ出し、ビジネスに活かして新しい価値やサービスを創出したり、生活に取り入れて健康で豊かに生きることを支援したりする試みが始まっている。本プランはデータサイエンスの基本要素となる科目を学ぶことにより、数理的思考とデータ分析に基づいて様々な問題を解決できる人材を育成する。</p>					
<p>(認証取得後の目的・目指せる道・資格等)</p> <p>① データを収集・分析し、数理的思考に基づいて社会の様々な課題を解決する。 ② データサイエンティスト、アクチュアリー、データアナリストになることを目指す。</p>					
<p>(認証取得条件)</p> <p>閉講科目を含む授業科目群65単位の中から、必修科目8単位、選択必修科目1単位以上を含めて、14単位以上を修得すること。 ※本プランの認証取得条件は、2020年度より単位数型となりました。 ◎：必修科目、○：選択必修科目、無印：選択科目 ※「備考」欄に(A)、(B)等の表記がある科目については、同じ記号の科目を複数修得していても、認証取得条件として認められるのは1科目分の単位数のみです。</p>					
授業科目群の構成					
	科目名	分野もしくはコース名	必修科目等	備考	
1	ユーザ調査法(20)㊦ ユーザ調査法(16) 情報機器利用者の調査法(12)	情報/心理と教育	○		
2	統計学(19)㊧ 統計学(13)、統計学(09)	自然と環境/心理と教育 情報			
3	現代経済学(19)㊦	社会と産業			
4	入門線型代数(19)㊦ 入門線型代数(14)、入門線型代数(09) 線型代数入門(03)	自然と環境			
5	社会調査の基礎(19)㊦ 社会調査の基礎(15)、社会調査(09) 社会調査(05)	社会と産業/生活と福祉 心理と教育			
6	情報技術が拓く人間理解(20)㊦	情報/心理と教育 自然と環境		(B)	
7	アルゴリズムとプログラミング(20)㊧ アルゴリズムとプログラミング(16)	情報			
8	問題解決の数理(21)㊦㊨ 問題解決の数理(17)	情報			
9	心理学統計法(21)㊦	心理と教育/情報		(C)	
10	生活環境情報の表現-GIS入門(20)㊧ 【1単位】	生活と福祉/社会と産業 情報			
11	Rで学ぶ確率統計(21)㊧ 【1単位】	情報/心理と教育			
12	表計算プログラミングの基礎(21)㊧ 【1単位】	情報			
<p>※本プランは2022年3月31日をもって廃止されましたが、経過措置として2022年3月31日まで申請が可能です。 ただし、2022年度以降は新規科目の追加は行いませんので、科目の閉講等に十分注意してください。なお、放送授業科目の開設期間はおおむね4年間です(開設期間は事情により変更することがあります)。</p> <p>※本プランの認証取得条件は、開設中の科目の単位だけでは満たせません。そのため、閉講科目のうちから、不足する単位を既に修得している場合のみ、本プランの認証取得を目指すことができます。</p>					
(閉講科目)	以下の科目の単位を修得済みの場合、認証取得条件として認めます。 (6、7ページの「授業科目群の見方(全認証プラン共通)」参照)				
	科目名	分野もしくはコース名	必修科目等	備考	
13	データの分析と知識発見(20) データの分析と知識発見(16) データからの知識発見(12)	情報/心理と教育 社会と産業	◎		
14	マーケティング(21)	社会と産業/心理と教育 情報	◎	(A)	
15	マーケティング論(17)	社会と産業	◎	(A)	
16	データベース(17)	情報	◎		
17	数値の処理と数値解析(14)	情報	◎		
18	感性工学入門(16)【1単位】	情報	○		
19	身近な統計(18) 身近な統計(12)、身近な統計(07)	基盤科目			
20	データ構造とプログラミング(18) データ構造とプログラミング(13)	情報/自然と環境			
21	社会統計学入門(18) 社会統計学入門(12)	社会と産業			
22	解析入門(18) 解析入門(14)	自然と環境			
23	経営学概論(18)	社会と産業			
24	経営情報学入門(19)	社会と産業/情報			
25	進化する情報社会(15) 進化する情報社会(11)	情報		(B)	
26	生活における地理空間情報の活用(16)	生活と福祉			
27	自然言語処理(19) 自然言語処理(15)	情報			
28	ソーシャルシティ(17)	生活と福祉			
29	心理統計法(17)	心理と教育/人間と文化		(C)	
30	情報セキュリティと情報倫理(18) 情報のセキュリティと倫理(14)	情報			
31	管理会計(18) 管理会計(14)	社会と産業			
32	初級簿記(16)	社会と産業			
33	入門微分積分(16) 微分と積分(10)、初歩からの微積分(06)	自然と環境			
34	Javaプログラミングの基礎(16)【1単位】	情報			
35	経済社会を考える(19)	社会と産業			

㊦市民活動支援プラン

認証状の名称		市民政策論			
<p>(認証の教育目標と社会的意義)</p> <p>本プランは、現代の市民生活において基本となる政治的教養及びこれに対する法的仕組みを学ぶことにより、高い市民意識に基づく市民活動をサポートする。</p>					
<p>(認証取得後の目的・目指せる道・資格等)</p> <p>上記(認証の教育目標と社会的意義)をご参照ください。</p>					
<p>(認証取得条件)</p> <p>閉講科目を含む授業科目群86単位の中から、20単位以上を修得すること。 ※「備考」欄に㉠、㉡等の表記がある科目については、同じ記号の科目を複数修得していても、認証取得条件として認められるのは1科目分の単位数のみです。</p>					
授業科目群の構成					
	科目名	分野もしくはコース名	必修科目等	備考	(閉講科目) 以下の科目の単位を修得済みの場合、認証取得条件として認めます。(6、7ページの「授業科目群の見方(全認証プラン共通)」参照)
1	市民自治の知識と実践('21)㉠	基盤科目		㉠	
2	社会と産業の倫理('21)㉡	基盤科目		㉡	
3	グローバル化時代の日本国憲法('19)㉢	社会と産業			
4	政治学入門('22)㉣	社会と産業/人間と文化		㉣	
5	情報セキュリティ概論('22)㉤ 情報セキュリティと情報倫理('18) 情報のセキュリティと倫理('14)	情報			
6	現代の国際政治('22)㉥	社会と産業/人間と文化		㉥	
7	刑法と生命('21)㉦	社会と産業		㉦	
8	雇用社会と法('21)㉧	社会と産業		㉧	
9	行政法('22)㉨	社会と産業		㉨	
10	市民生活と裁判('22)㉩ 市民生活と裁判('18)	社会と産業			
11	民法('22)㉪	社会と産業		㉪	
12	財政と現代の経済社会('19)㉫ 財政と現代の経済社会('15)	社会と産業			
13	著作権法('22)㉬	社会と産業/情報		㉬	
14	空間と政治('22)㉭	社会と産業		㉭	
					15 環境問題のとらえ方と解決方法('17) 社会と産業/自然と環境
					16 市民自治の知識と実践('15) 基盤科目 ㉠
					17 グローバル化と私たちの社会('15) 社会と産業 ㉡
					18 政治学へのいざない('16) 社会と産業 ㉣
					19 現代の国際政治('18) 現代の国際政治('13) 社会と産業/人間と文化 ㉥
					20 刑事法('16) 社会と産業 ㉦
					21 雇用社会と法('17) 社会と産業/生活と福祉 ㉧
					22 行政法('18) 社会と産業 ㉨
					23 民法('17) 民法('13) 社会と産業/生活と福祉 ㉪
					24 NPO・NGOの世界('21) 社会と産業/心理と教育 ㉩
					25 NPOマネジメント('17) NPOマネジメント('11) NPOマネジメント('07) 社会と産業 ㉫
					26 著作権法('18) 社会と産業/情報 ㉬
					27 地域と都市の防災('16) 社会と産業
					28 権力の館を考える('16) 社会と産業 ㉭
					29 ヨーロッパ政治史('20) 社会と産業/人間と文化 ㉮
					30 ロシアの政治と外交('15) 社会と産業 ㉯
					31 行政学概説('20) 社会と産業 ㉰
					32 現代の行政と公共政策('16) 社会と産業 ㉱
					33 現代東アジアの政治と社会('20) 社会と産業/人間と文化 ㉲
					34 東アジアの政治社会と国際関係('16) 社会と産業 ㉳
					35 中東の政治('20) 社会と産業/人間と文化 ㉴
					36 情報化社会と国際ボランティア('19) 情報/心理と教育
					37 地域コミュニティと教育('18) 心理と教育/社会と産業
					38 パレスチナ問題('16) 社会と産業 ㉵
					39 現代日本の政治('19) 社会と産業 ㉶
					40 現代日本の政治('15) 社会と産業 ㉷
					41 日本政治外交史('19) 社会と産業/人間と文化
					42 日本政治思想史('21) 日本政治思想史('17) 社会と産業/人間と文化
					43 国際法('19) 社会と産業

※本プランは2023年3月31日をもって廃止されましたが、経過措置として2028年3月31日まで申請が可能です。
 ただし、2023年度以降は新規科目の追加は行いませんので、科目の閉講等に十分注意してください。なお、放送授業科目の開設期間はおおむね4年間です(開設期間は事情により変更することがあります)。

②6 日本の文化・社会探究プラン

認証状の名称		日本の文化と社会			
<p>(認証の教育目標と社会的意義)</p> <p>多様化する現代社会において、みずからの知識・精神を涵養するための土壌を持つことは、さらなる視野の拡大と思索の深化をもたらす必須条件である。本プランは、日本の歴史・文学・芸術などに関する科目を集中的に学ぶことによって、広く日本の文化と社会の全体像を、過去から現在にわたって総合的に把握するとともに、未来に向けて発想力・構築力・表現力の養成を目指すものである。</p>					
<p>(認証取得後の目的・目指せる道・資格等)</p> <p>認証取得によって、日本文学や日本文化の分野で、卒業研究や修士論文に取り組む基礎学力を得る。</p>					
<p>(認証取得条件)</p> <p>閉講科目を含む授業科目群 34 単位の中から、必修科目 4 単位を含めて、20 単位以上を修得すること。 ◎：必修科目、無印：選択科目 ※「備考」欄に㉠、㉡等の表記がある科目については、同じ記号の科目を複数修得していても、認証取得条件として認められるのは 1 科目分の単位数のみです。</p>					
<p>授業科目群の構成</p>					
	科目名	分野もしくはコース名	必修科目等	備考	(閉講科目) 以下の科目の単位を修得済みの場合、認証取得条件として認めます。(6、7ページの「授業科目群の見方(全認証プラン共通)」参照)
1	日本語学入門(20) ㉠	人間と文化	◎	㉠	
2	日本文学と和歌(21) ㉡	人間と文化		㉡	
3	『方丈記』と『徒然草』(18) ㉠	人間と文化			
4	日本近現代史(21) ㉡	人間と文化/社会と産業		㉢	
5	日本美術史の近代とその外部(18) ㉠	人間と文化			
6	文学・芸術・武道にみる日本文化(19) ㉠	人間と文化			
7	日本文学における古典と近代(18)	人間と文化	◎		
8	日本語概説(15)	人間と文化	◎	㉠	
9	日本仏教を捉え直す(18)	人間と文化			
10	『古事記』と『万葉集』(15)	人間と文化		㉡	
11	日本の近現代(15)	人間と文化		㉢	
12	上田秋成の文学(16)	人間と文化			
13	日本の古代中世(17)	人間と文化			
14	日本文学の名作を読む(17)	人間と文化			
15	漢文の読み方(19)	人間と文化			
16	日本政治外交史(19)	社会と産業/人間と文化			
17	日本政治思想史(21) 日本政治思想史(17)	社会と産業/人間と文化			
<p>※本プランは2023年3月31日をもって廃止されましたが、経過措置として2028年3月31日まで申請が可能です。 ただし、2023年度以降は新規科目の追加は行いませんので、科目の閉講等に十分注意してください。なお、放送授業科目の開設期間はおおむね4年間です(開設期間は事情により変更することがあります)。 ※本プランの認証取得条件は、開設中の科目の単位だけでは満たせません。そのため、閉講科目のうちから、不足する単位を既に修得している場合のみ、本プランの認証取得を目指すことができます。</p>					

②7 計算機科学基礎プラン

認証状の名称	計算機科学の基礎
<p>(認証の教育目標と社会的意義)</p> <p>現代社会は計算機なしでは成り立たないほど、計算機の重要性は増している。計算機やソフトウェアの基本的な仕組みを理解していることは、計算機自体やソフトウェア、サービスを開発するためだけでなく、職場や家庭においてソフトウェアやサービスを安全かつ効果的に活用し、仕事や生活の質の向上を図る上でも重要である。本プランは、その基礎となる計算機科学及び数理系の科目を学ぶことにより、特定の応用分野によらず広く計算機に関わる問題に対応できる人材を育成する。</p>	
<p>(認証取得後の目的・目指せる道・資格等)</p> <p>①情報処理推進機構(IPA)の基本情報技術者試験と応用情報技術者試験やGAIT(Global Assessment of Information Technology)、CompTIAなどの一般ICT系の資格取得を目指す。</p> <p>②本プランでは、数々のより専門的なICT系資格に共通する基礎が学べる。</p>	
<p>(認証取得条件)</p> <p>閉講科目を含む授業科目群50単位の中から、必修科目6単位、選択必修科目2単位を含めて、20単位以上を修得すること。</p> <p>◎：必修科目、○：選択必修科目、無印：選択科目</p> <p>※「備考」欄に㊸、㊹等の表記がある科目については、同じ記号の科目を複数修得していても、認証取得条件として認められるのは1科目分の単位数のみです。</p>	

授業科目群の構成

科目名	分野もしくはコース名	必修科目等	備考
1 コンピュータとソフトウェア('18) ㊸	情報 / 自然と環境	◎	
2 情報理論とデジタル表現('19) ㊸ デジタル情報と符号の理論('13)	情報	○	
3 情報ネットワーク('18) ㊸ 情報ネットワーク('14)	情報	○	
4 情報学へのとびら('22) ㊸ 情報学へのとびら('16)	基盤科目		
5 入門線型代数('19) ㊸ 入門線型代数('14)、入門線型代数('09) 線型代数入門('03)	自然と環境		
6 入門微積分('22) ㊸ 入門微積分('16)、微分と積分('10) 初歩からの微積分('06)、初等微積分学('02) 微積分入門Ⅰ('98)、微積分学Ⅰ 微積分学、基礎数学Ⅰ	自然と環境 / 情報		
7 線型代数学('17) ㊸	自然と環境		
8 統計学('19) ㊸ 統計学('13)、統計学('09)	自然と環境 / 情報 心理と教育		
9 身近なネットワークサービス('20) ㊸ 身近なネットワークサービス('16)	情報		
10 アルゴリズムとプログラミング('20) ㊸ アルゴリズムとプログラミング('16)	情報		
11 数値の処理と数値解析('22) ㊸ 数値の処理と数値解析('14)	情報 / 自然と環境		
12 C言語基礎演習('20) ㊸ 【1単位】	情報		
13 問題解決の数理('21) ㊸ 問題解決の数理('17)	情報		
14 数理最適化法演習('20) ㊸ 【1単位】	情報		
15 デジタル情報の処理と認識('22) ㊸ デジタル情報の処理と認識('18) デジタル情報の処理と認識('12)	情報		
16 Rで学ぶ確率統計('21) ㊸ 【1単位】	情報 / 心理と教育		

(閉講科目) 以下の科目の単位を修得済みの場合、認証取得条件として認めます。(6、7ページの「授業科目群の見方(全認証プラン共通)」参照)

科目名	分野もしくはコース名	必修科目等	備考
17 計算の科学と手引き('19)	情報 / 自然と環境	◎	
18 コンピュータの動作と管理('17)	情報	◎	
19 データ構造とプログラミング('18) データ構造とプログラミング('13)	情報 / 自然と環境	○	
20 身近な統計('18) 身近な統計('12)、身近な統計('07)	基盤科目	○	
21 解析入門('18) 解析入門('14)、解析入門('08)	自然と環境 / 情報		
22 データの分析と知識発見('20) データの分析と知識発見('16) データからの知識発見('12)	情報 / 心理と教育 社会と産業		
23 微分方程式('17) 微分方程式への誘い('11)	自然と環境		
24 自然言語処理('19) 自然言語処理('15)	情報		
25 データベース('17)	情報		
26 Javaプログラミングの基礎('16) 【1単位】	情報		
27 Webのしくみと応用('19) Webのしくみと応用('15)	情報 / 心理と教育		

※本プランは2023年3月31日をもって廃止されましたが、経過措置として2028年3月31日まで申請が可能です。

ただし、2023年度以降は新規科目の追加は行いませんので、科目の閉講等に十分注意してください。なお、放送授業科目の開設期間はおおむね4年間です(開設期間は事情により変更することがあります)。

※本プランの認証取得条件は、開設中の単位だけでは満たせません。そのため、閉講科目のうちから、不足する単位を既に修得している場合のみ、本プランの認証取得を目指すことができます。

5. Q & A

Q1. ○○○プランを取得したいのですが、放送大学の科目登録をするときに、何か手続きをしなければいけないのですか。

A エキスパートについては、事前の手続きは特に必要ありません。通常どおりに科目登録をしてください。「認証取得条件」を満たした後に、本パンフレット36ページの〔認証状等交付願〕を使って申請してください。
※4ページ「2. 認証状申請手続要領」参照。

Q2. これから認証取得を目指そうと思っていますが、注意することはありますか。

A 複数年かけて取得を目指す場合には、科目の有効期限にご注意ください。有効期限の切れた科目は、認証取得には利用できなくなります。認証取得条件を満たした年度中に有効期限切れになる科目がある場合には、その翌年度の第1学期まで（9月30日までの到着分有効）に申請を行うようにしてください。なお、認証状申請期間終了となる9月30日までに5ページに記載されている申請先へ認証状等交付願が到着すること及び発行手数料の支払完了が必要です（支払完了は銀行振込の場合は払込完了、郵便定額小為替及び現金書留の場合は5ページに記載されている申請先に必着すること）。有効期限切れの結果、認証取得条件を満たさないことになる場合があります。

Q3. 〔認証状等交付願〕を送ったのですが、1ヶ月過ぎても認証状等が届きません。

A 〔認証状等交付願〕の受付は毎月月末で締め切り、認証状等がお手元に届くまで2ヶ月程を要します。例えば4月に申請・受付した場合は、通常6月末までに発送しています。ご理解のほど、お願いいたします。
また、毎学期の成績発表後は申請が大変多いため、上記よりさらに1ヶ月程度お時間をいただく場合があります。あらかじめご了承ください。
※認証状等交付願の到着確認には、応じておりません。（4ページ「2. 認証状申請手続要領」参照）

Q4. 認証状、証明書、カードの再発行はできますか。

A 認証状の再交付はできません。ただし、証明書・カードの再交付は可能です。
※4ページ「2. 認証状申請手続要領」参照。

Q5. 休学中でも「認証状」は申請できますか。

A できます。教養学部学籍があれば、通常と同様に申請が可能です。

Q6. 前年度まで必修だった科目が必修科目ではなくなりましたが、なぜですか。

A 必修科目は、認証を取得するにあたって必ず履修しなくてはならない科目です。必修科目が閉講になり、後継となる科目が開講されない場合には、その科目が必修科目のままであると、新たに認証を取得することが不可能になってしまいます。そのため、必修科目の指定を解除することがあります。

Q7. 現在認証取得を目指しているところですが、必修科目の指定が解除されたことによって、不利益になることはありますか。

A 不利益とならないように配慮しています。必修科目でなくなっても、認証取得に必要な合計単位数の中には含まれますので、既にその科目の単位を修得した方については、新たに履修しなくてはならない科目が増えることはありません。
※その科目の必修指定が解除される、されないに関わらず、他の必修科目は必ず履修しなくてはなりません。

Q8. 廃止となるプランはいつまで申請できますか。

A 廃止となった年度の次の年度から5年間申請できます。ただし、廃止となった年度以降新規科目の追加は行いません。科目の閉講、申請期限等に十分注意し、廃止までに必修科目・選択必修科目を優先して履修されることをおすすめします。なお、放送授業科目の開設期間はおおむね4年間です（開設期間は事情により変更することがあります）。廃止となるプランの5年間の経過措置期間が終了する年度の3月31日までに5ページに記載されている申請先へ認証状等交付願が到着すること及び発行手数料の支払完了が必要です（支払完了は銀行振込の場合は払込完了、郵便定額小為替及び現金書留の場合は5ページに記載されている申請先に必着すること）。

Q9. 認証取得条件を満たしているかどうか、確認してもらえますか。

A システムWAKABAでは、単位修得情報、履修情報のほか、科目群履修認証制度自己判定機能もご利用いただけます。本手引き及び科目群履修認証制度自己判定機能を利用し、ご自身で確認してください。
 自己判定機能：システムWAKABAの「教務情報」を選択⇒資格取得判定の「科目群履修認証制度自己判定」を選択⇒「判定年度」を選択⇒資格を選択し、「判定」をクリック。判定結果画面が表示されます。
 資格を取得するために必要な条件が画面左「科目区分」欄に表示され、修得済みの科目・履修中の科目が「要件科目名」欄に表示されます。なお、「科目区分」欄の科目No.は、冊子に記載されている科目No.と連動しています。

※参考（自己判定結果画面）

判定条件年度		2023年度						
判定資格		臨床心理学基礎						
科目区分	要件 単位数	修得 単位数	要件科目名	単位	修得 年度	修得 学期	履修中	
合計	20	38						
【必修科目】	4	4						
科目No.01	2	2	臨床心				2	
科目No.02	2	2	心理				2	
【選択必修科目】	14	16						
科目No.03		2	感情・				○	
科目No.04		2	思春期				1	
科目No.05		2	精神分析とユング心理学(’23)	2			○	
科目No.06		2	認知行動療法(’20)	2	2021		1	
科目No.07		2	乳幼児・児童の心理臨床(’17)	2	2023		1	
科目No.08		2	中高年の心理臨床(’20)	2			○	
科目No.09								
科目No.10		2	心理的アセスメント(’20)	2	2021		2	
科目No.27		2	心					
【選択科目】		18						
科目No.11		2	発				1	
科目No.12		2	教				2	
科目No.13								

「合計」、「必修科目」、「選択必修科目」など各項目の「要件単位数」と「修得単位数」の単位を比較することで、取得条件を満たしているか確認することができます。

履修中科目については「修得単位数」に含まれますが、単位認定試験後、単位を修得したことを確認してから申請してください(単位修得前に申請いただいても交付できません)。

Q10. 単位認定試験の成績通知が届く前に、放送大学へ交付願を送ってもいいですか。

A 成績通知を受け取って、認証取得条件を満たしていることを確認のうえ、交付願等の申請書類を送付してください。

Q11. 取得済みのプランはどうすれば確認できますか。

A 取得済みのプランは、科目群履修認証制度自己判定機能を利用し確認することができます。資格取得判定指示画面において、「判定年度」の下にプランが一覧表示されますが、既に取得しているプランは画面上に表示されません。本手引き表紙の認証一覧と見比べていただき、表示されていないプランがあれば、既に取得したプランとなります。なお、経過措置終了後のプランにつきましては、自己判定機能での確認ができませんのでご注意ください。

Q12. 平成20年4月以降の認証状とそれ以前の認証状はどのように違うのですか。

- A** 平成20年4月以降に発行する認証状には、学校教育法第105条の規定に基づく制度であることが明記されます。これに対して、それ以前の認証状は放送大学独自のものとなります。
- 平成20年3月31日以前の認証状を取得している場合、再審査により学校教育法第105条の規定に基づく制度であることを明記した認証状を発行できます。再審査及び認証状発行を申請する場合の発行手数料は、1認証につき500円となり、1回限り発行できます。
- なお、実際の取り扱いは、今まで同様、各団体がどのように評価するかになると考えます。

認証状等交付願（2025年度）

年 月 日

放送大学長 殿

学 生 番 号 - -

氏名（フリガナ） _____ (_____)

所 属 _____ 学習センター サテライトスペース

学 生 の 種 類 _____ 全科履修生 選科履修生 科目履修生

住 所 _____ 〒 _____

日 中 連 絡 の 取 れ る
T E L _____

F A X _____

E-mail アドレス _____

①→②→③→④→⑤→⑥→⑦の順に、必ず全て記入してください。
※3 ページの申請資格を満たした後に発行手数料と一緒に申請してください。

No.	認 証 状 の 名 称	①希望の認証状に○印を記入してください <small>※複数の認証状を希望される場合は、それぞれの欄に○印を記入してください</small>	②証明書の希望枚数を記入してください <small>※必ず「1通」は記入してください(1通は必ず認証状に添付されます) ※証明書の再交付希望の場合は、(再交付)に○印を記入してください</small>	③カードを希望する場合は、○印を記入してください	④発行手数料の金額を記入してください(4ページ参照) ※認証状+証明書 → 1,000円 ※認証状+証明書+カード → 1,500円
1	健康福祉運動指導者		通 (再交付)		円
2	福祉コーディネータ		通 (再交付)		円
3	社会生活プランナー		通 (再交付)		円
4	心理学基礎		通 (再交付)		円
5	臨床心理学基礎		通 (再交付)		円
6	異文化理解支援		通 (再交付)		円
7	宇宙・地球科学		通 (再交付)		円
8	環境科学の基礎		通 (再交付)		円
9	芸術系博物館活動支援		通 (再交付)		円
10	歴史系博物館活動支援		通 (再交付)		円
11	自然系博物館活動支援		通 (再交付)		円
12	工学基礎		通 (再交付)		円
13	地域貢献リーダー人材		通 (再交付)		円
14	日本文化を伝える国際ボランティア・ガイド(基礎力)養成		通 (再交付)		円
15	学校地域連携コーディネーター		通 (再交付)		円
16	データサイエンス・リテラシー		通 (再交付)		円
17	データサイエンス応用基礎		通 (再交付)		円
18	現代社会の探究		通 (再交付)		円
19	次世代育成支援		通 (再交付)		円
20	生命人間科学		通 (再交付)		円
21	数学と社会		通 (再交付)		円
22	食と健康アドバイザー		通 (再交付)		円
23	人にやさしいメディアのデザイン		通 (再交付)		円
24	データサイエンス		通 (再交付)		円
25	市民政策論		通 (再交付)		円
26	日本の文化と社会		通 (再交付)		円
27	計算機科学の基礎		通 (再交付)		円

⑤本学全科履修生への入学資格の有無

※学校教育法の規定により、本制度の申請資格は、「本学全科履修生への入学資格を有していること」となっています。3ページの〈申請資格〉欄をご確認いただき、本学全科履修生への入学資格のある方は○印を記入してください。

⑥支払方法	銀 行 振 込	⑦合計支払金額
<small>支払い方法に○印を記入してください</small>	郵便定額小為替	円
	現金書留	

交付願に記載された個人情報、「認証状」、「証明書」及び「カード」の交付業務及び本学園の業務活動に限って使用させていただきます。